

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報告書 )

国語	P 1
書写	P 7
社会 (地理的分野)	P 12
社会 (歴史的分野)	P 17
社会 (公民的分野)	P 26
地図	P 33
数学	P 36
理科	P 44
音楽 (一般)	P 51
音楽 (器楽合奏)	P 54
美術	P 57
保健体育	P 61
技術・家庭 (技術分野)	P 66
技術・家庭 (家庭分野)	P 70
英語	P 74
道徳	P 81

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

国 語

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	国 語
1年	2年	3年	発行者名	
国語 038-72 国語1	国語 038-82 国語2	国語 038-92 国語3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りの文言が分かりやすく、目標と振り返り・評価の一体化が図られている。振り返りを通じて言語活動が展開できる。</li> <li>・ 「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」で情報の取り扱いや整理の仕方を図解入りで分かりやすく示している。この内容は必要に応じて学年をまたいで使用することもできる。また、読む教材におけるガイダンスとしても有効である。</li> <li>・ 内容によってページのデザインが大きく変わっている。そのため、視覚的な切り替えがしやすく、思考の切り替えが期待できる。</li> <li>・ 「語彙ブック」は発達段階に応じて語彙力を高め、思いや考えを表現するための手立てとなっている。ブックインブックの形式で用意されている。</li> <li>・ 全学年に特設教材「情報×SDGs」が設置され、情報活用能力を養いながら、現代的な諸課題について、主体的に考える機会が設けられている。</li> <li>・ 「読む」教材においては、生徒同士、教師と生徒の間で多様な解釈を交わせるような作品が多く取り上げられている。また、中学生として身につけてほしい読解力に応じた分量となっているところが多く、生徒にとって取り組みやすい内容となっている。</li> <li>・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の最初の見開きや、「読むこと」の「学びの扉」は、学習活動全体を見通し、自らの学習を調整しながら対話的に理解や考えを深める構成になっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習の見通しをもとう」が横書きになったことにより、生徒にとって従来よりも見やすくなった。単元内での学びの流れをつかみながら、年間を通して身につけさせたい力も見通すことができる。他教科やSDGsとの関連をわかりやすく一覧で示し、生徒が主体的に学習できるようにしている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学びのカギ」が全領域に配置され、領域間の学びのつながりを視覚的にとらえることができる。横書きになって図式化されている。このことにより、学習の流れが非常によく見えるようになった。また、「学びの扉」「学びの地図」と連動して課題解決能力を育成することができる。</li> <li>・ 個別最適を考えて設定されたコンテンツが充実している。一人一人の興味・関心や課題に応じて自由に選択し活用できるコンテンツが3年間にわたり、350点以上用意されている。</li> <li>・ 各学年の「文法」の学習ではICTを取り入れ、親しみやすくしている。基礎・基本を楽しく身につけられる配慮がなされている。</li> <li>・ 「違いを認め合う」「自分らしく生きる」「多様な文化の理解と尊重」等、ともに生きる社会を目指す「多様性」に着眼し、中学生が自ら考え、行動する力を養う教材が配列されている。</li> <li>・ 「書くことのレッスン」や「国語の力試し」で、生徒自身が「何ができるようになったのか」「課題は何か」を把握し、自らの学習の調整ができるよう工夫されている。</li> <li>・ 古典では視覚資料を多く取り入れ古典への興味を引き出そうとしている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「読書」に関する単元が、各学年2か所ずつ設けられている。ノンフィクション作品が紹介されていることで、生き方や社会とのかかわりを考えるきっかけとなっている。</li> <li>・ 「主体的な学びのために」を活用し、教科書の機能を理解し、学習に見通しをもたせ、主体的に「学び」に向かわせるための動機づけがなされている。</li> <li>・ 図や資料が充実しており、生徒が多面的に物事をとらえやすい内容となっている。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	国語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍	
国語 002-72 新編 新しい国語1	国語 002-82 新編 新しい国語2	国語 002-92 新編 新しい国語3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来への扉」は国語科での学習を将来どのように生かしていくのかを考える指針となっている。</li> <li>・他教科との関連が記号で示されており、教科横断的な学習を生徒自身が意識できるようになっている。</li> <li>・文法の解説が図式化・色分けなどで視覚的に分かりやすく、内容も充実している。</li> <li>・巻末に「言葉の力」一覧が掲載されており、どの学年でどんな力をつけるのかが明確に示されている。</li> <li>・「学びを支える言葉の力」が系統立てて配置され、学習を支える基礎力を習得し、前後の教材で活用できるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツが充実している。文法ゲームでは、生徒が楽しみながら学びを深めることができる。また、思考ツールのコンテンツでは、思考ツールに直接入力できるようになっている。</li> <li>・物語仕立ての「日本語探検」など、言葉に興味を持たせるような構成になっている。</li> <li>・各教材において、教材末尾に「てびき」の見出しで、学習の流れを一目でわかるように示してある。「言葉の力」で身につけたい資質・能力を明示している。教材冒頭に吹き出しで生徒目線の問いかけを示し、生徒が意識しながら学習できるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別教材一覧は、指導要領との関連が明確に示されている。また、巻末「言葉の力一覧」は、3年間の学習を見通すことにつながっている。</li> <li>・領域ごとに使う色を変えているため、ページの顔が変化する見やすさがある。使っている色も視覚的刺激が少ないので、生徒の負担軽減になると思われる。</li> <li>・「古典」の学習では、3年で「発展」として古典文法を掲載し、興味をもった生徒がさらに学習できるように工夫されている。</li> <li>・PISA調査や全国学力・学習状況調査で求められている学力をつける教材（文章や資料の読み比べ、複数の図表の比較、必要な情報の引用など）が充実している。</li> </ul>			
4 本書の 特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翻訳コンテンツが画期的である。外国籍の生徒が増えている現状から、今後ますますニーズが高まるものと思われる。</li> <li>・デジタルコンテンツが充実しており、個別最適な学習が進められるようになっている。</li> <li>・「読むこと」の教材で、本文の各行の下に点や数字をつけて行数がわかるように示したり、色彩と記号を組み合わせると判別しやすくしたりと、特別支援教育の視点で配慮された構成になっている。</li> </ul>			

			種目	国語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育出版	
国語 017-72 伝え合う言葉 中学国語1	国語 017-82 伝え合う言葉 中学国語2	国語 017-92 伝え合う言葉 中学国語3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なメディアの表現特性について学べる。併せて、メディアリテラシーを系統的に学ぶことができる。</li> <li>・「表現に役立つ言葉」「理解に役立つ言葉」「話すこと・書くことテーマ例集」「学習に必要な用語（索引）」では思考や表現のための語彙集やテーマ・主な学習用語がまとめられており、主体的に言葉の学習に取り組むことができる。</li> <li>・多様で現代的な話題を取り上げ、生徒の論理的思考力の向上をねらった内容が多く見られる。</li> <li>・社会や人間の光と影、微細な心情の変化も捉えた「リアル」が表現され、読む側に様々な感想をいだかせる教材が見られる。</li> <li>・「言葉の地図」で学ぶ内容と身につけたい言葉の力を明示している。</li> <li>・未来に生かせる学習になるよう、「学びを生かす」でこの学習が実生活のどんなところに生きるのか、方向を示している。また、SDGsの教材を各学年で取り上げている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びのチャレンジ」が3年間配列されている。PISA型学力を意識しながら発展的な学習を進めることができる。</li> <li>・文法の学習について、わかりやすい例示がされており、導入時につまずきが心配される生徒への配慮が見られる。</li> <li>・「不易と流行」の観点から、現代社会で取り上げられる内容のものと、昔から取り上げられている作品等がバランスよく取り上げられている。</li> <li>・SDGsの教材を採用するなど、問題発見・解決能力を育成する工夫がされている。</li> <li>・情報の教材に「漫画」「映像作品」を取り入れるなど、生徒の興味を引く題材をのせている。</li> <li>・「言葉の自習室」で学習を深めるための教材や語彙などを紹介している。</li> <li>・言葉と文法は、「文法の小窓」と「解説」の2部構成になっている。</li> <li>・目標→学びナビ→みちしるべ→振り返りと学習が展開でき、学びを見通すことができる。</li> <li>・学びナビでは上段に説明、下段に図解するなど、わかりやすい構成になっている。</li> <li>・論理的思考と身につけたい表現を小学校の学習から積み上げられるよう、教材を配置している。</li> <li>・まなびリンクで多様なデジタル資料を提供している。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びナビ」が各領域に設定され、「何をどのように学ぶのか」が明確に示されている。</li> <li>・言語に関する内容が「やってみよう～考えてみよう」の流れで既習事項を活用しながらステップアップできるようになっている。</li> <li>・三年間で、「学び」が「見える」「深まる」「つながる」構成となっており、言葉で考え、言葉で理解し、言葉で伝え合う流れが明確になっている。</li> <li>・分量については、過不足ない内容となっており、年間時数内で取り扱うことができると考えられる。</li> <li>・配列については、「読む」教材を中心にバランスよく構成されている。</li> </ul>			

4 本書の特徴点  
について

- ・三年間で、「学び」が「見える」「深まる」「つながる」構成となっており、言葉で考え、言葉で理解し、言葉で伝え合う流れが明確になっている。
- ・分量については、過不足ない内容となっており、年間時数内で取り扱うことができると考えられる。
- ・配列については、「読む」教材を中心にバランスよく構成されている。
- ・本文の各行の下に点や数字をつけて行数を分かりやすく示すなどの配慮がされている。
- ・目標・学びナビ→みちしるべ→振り返りと、学びの見通しができる構成になっている。
- ・SDGs教材など、未来や実生活に生きる教材を採用している。
- ・表現に役立つ言葉・理解に役立つ言葉など、語彙のリストが充実している。

			種 目	国 語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	三省堂	
国語 015-72 現代の国語1	国語 015-82 現代の国語2	国語 015-92 現代の国語3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭の「思考の方法」と巻末「読み方を学ぼう 一覧」で、3年間を見通した（振り返る）形式となっている。どの単元でどの力をつけるか、つけたかが明確になっている。</li> <li>・巻末資料「学習用語辞典」「語彙の広がり」や「語彙を豊かに」のコーナーを通じて、語彙の獲得をねらうことができる。</li> <li>・多様で現代的な話題を取り上げ、生徒の論理的思考力の向上をねらった内容が多く見られる。</li> <li>・QRコードから、授業でサポート的な内容として使える参考資料等が充実している。</li> <li>・3年間通して、単元の構成が統一されている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「読むこと」で扱った教材につなげて活動できるように設定されている。</li> <li>・「読むこと」の説明的文章では、見開きで表せる程度の短い説明文を視覚的にわかりやすく解説した後に、もう1作品説明文を掲載しており、学習したことを生かして読みを深められるように工夫されている。</li> <li>・「情報の扱い方」の単元が、どの学年にも設定されており、漫画を利用したり、資料を複数比較したりしながら考えを深められるように構成されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章で「読み方を学ぼう」が設定されており、各学年でガイダンス学習をしてから本編に入る構成となっている。基礎に立ち返ることもできるし、内容や話題の異なる文章を同じ観点で読み比べることもできる。</li> <li>・1年生の古典は、通釈に偏らず、物語そのものを読み親しむ内容となっており、生徒にとってわかりやすい内容となっている。</li> <li>・「読むこと」では、文章を読むにあたって必要とされる技術を、「読み方を学ぼう」という形で、3年間で22種類に分類して学ぶことができるように構成されている。</li> <li>・「思考の方法」一覧があり、どの場面でどの思考ツールを使うのがよいか、わかりやすく示されている。</li> <li>・「語彙を豊かに」というコーナーを設け、語彙力の向上を目指した内容になっている。</li> <li>・日本語と英語を比較して学べるコーナーが設けられている。</li> <li>・古典に興味を持たせるように、挿絵や資料が工夫されている。</li> <li>・学習用語辞典が付されており、いつでも振り返ることができるようになっている。</li> <li>・興味を引くように、話題になった曲の歌詞なども取り上げている。</li> <li>・デジタルコンテンツで、漢字のテストができるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の構成が3年間同じにしてある。</li> <li>・領域別教材一覧で、わかりやすく表にまとめられている。</li> <li>・「読むこと」の後に「書くこと」の活動を位置づけることで、学んだことを実践に生かせるようになっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の質、ガイダンス機能、読み比べなどバランスのとれた配列となっている。</li> <li>・図表が多く取り入れられ、視覚的にわかりやすいように工夫されている。</li> <li>・「読み方を学ぼう」など、どの単元でどの力をつけるのかが明確になっている。</li> <li>・学習した内容を生かして「書くこと」の活動ができるように構成されている。</li> <li>・語彙力を高めるために、「語彙を豊かに」で多様な語句を取り上げる、英語との比較をする、辞典を活用する教材を設けるなどの工夫がされている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

**書 写**

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	書 写
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	光村図書出版 株式会社	
書写 038-72 中学書写一・二・三年				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教材に学習のポイントがひと目でわかる「学びのカギ」が設けられ、基礎・基本、原理・原則が明確にわかるように示されている。</li> <li>・巻頭に「中学書写スタートブック」が設定され、書写の基本が学べるように工夫されている。</li> <li>・主体的に学習できるようにするために、「考えよう」→「確かめよう」→「生かそう」の3ステップで、学習の見通しが立てられる構成になっている。</li> <li>・巻末に「書き初めマスターブック」を設定し、文字文化への理解を深める工夫がされている。</li> <li>・「手書きのよさ」を生徒に考えさせる内容が多く組み込まれ、「相手意識」をもって「書く力」を養うことができる。</li> <li>・全教材に「学習の進め方」が示されており、生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができる。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のサイズを大きくし、行書では半紙原寸大のお手本を掲載して学びやすくしている。</li> <li>・「行書スイッチ」という形で、行書の特徴を四つにまとめわかりやすくしている。</li> <li>・QRコードコンテンツで、筆使いが明確になるように工夫されている。</li> <li>・Q&amp;Aコーナーが設けられ、学ぶ意味を考えられるようになっている。</li> <li>・基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるよう、生徒の発達段階に応じて適切な教材が精選され、わかりやすく提示されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語教科書と連動した教材を採用し、書写でつけた力を実生活で生かせるように工夫されている。</li> <li>・別冊「書写ブック」が設けられ、毛筆と同じ学習要素をもつ硬筆課題が豊富にあり、毛筆と硬筆を関連付けながら学べるようになっている。</li> <li>・「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3ステップで構成し、学習の過程を明示することで、主体的・対話的な学びができるように工夫されている。</li> <li>・一部漫画で説明するなど、生徒が興味をもつ工夫がされている。</li> <li>・SDGsや防災教育など、今日的な教育課題につながるコーナーを設けている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漫画」を取り入れた説明、著名人の個性あふれる文字などを採用することにより、生徒が興味をもって学べる工夫がされている。</li> <li>・国語との連携を図り、言語活動と関連する教材を積極的に取り上げ、学びが繋がるように工夫されている。</li> <li>・教材文字の書き込み欄を下にする、左利き用のデジタルコンテンツを準備するなど、左利きの生徒への配慮がなされている。また、ユニバーサルデザインの書体を採用するなど、特別支援教育の視点からも配慮がなされている。</li> <li>・「中学書写スタートブック」「書き初めマスターブック」「書写ブック」や豊富なデジタルコンテンツがあり、様々な学習と関連付けながら実生活に生かせる工夫がされている。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

教科用図書の記号・番号・名称			種目	書写
1年	2年	3年		発行者名
書写 002-72 新編 新しい書写 一・二・三年				東京書籍 株式会社
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を整えて書くための汎用的なポイントを「書写のかぎ」で示し、書写の原理・原則の定着を図っている。</li> <li>・「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3ステップで構成されている。</li> <li>・「文字といっしょに」で手書き文字と活字の特徴、用具や文字文化に関するコラムを活用例とともに掲載することで文字文化について尊重する態度を養う。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運筆動画で実際の動きがわかるようになっている。</li> <li>・行書の四つの動きに注目し取り上げることで簡単に行書が書けるようにしている。</li> <li>・「生活に広げよう」「書写活用ブック」で実生活に生かせる工夫がされている。</li> <li>・日常生活と関わりの深い横書きの書き方を各学年で取り上げている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬筆→毛筆→硬筆という展開で、硬筆と毛筆を関連付けて学習できるようにしている。</li> <li>・国語や他教科の学習と連動している単元・教材には、教科書関連マークをつけて意識付けを図っている。</li> <li>・「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3ステップで構成し、学習の過程を明示することで、主体的・対話的な学びができるように工夫されている。</li> <li>・「行書のまとめ」「書写テストに挑戦！」を設定することで、授業を通して学習した知識・技能を振り返ることにより、書写で必要とされる知識及び技能を定着することができる。</li> <li>・「書写のかぎ」としてポイントを示し、学習する内容を焦点化することで、生徒が資質・能力を見つけられるよう配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本は二色の淡墨を使い、毛筆の筆遣いについて筆の角度やさばき方などがわかりやすく示されている。「トン・スー・ピタ」などの音で、筆の運びがイメージできるように工夫されている。</li> <li>・国語との連携を図り、言語活動と関連する教材を積極的に取り上げ、学びが繋がるように工夫されている。</li> <li>・教材文字の書き込み欄を下にするなど、左利きの生徒への配慮がなされている。また、一般的なユニバーサルデザインの書体ではなく、手書きに近い形のフォントを採用するなど、特別支援教育の視点からも配慮がなされている。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種 目	書 写
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育出版 株式会社	
書写017-72 中学書写				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びができるよう、「目標」→「考えよう」→「生かそう」→「振り返ろう」→「学習や日常生活に生かそう」の5ステップで学習手順が明確化されている。</li> <li>・「書いて味わう」で教科書に出てきた文章を視写するなど、「書くこと」「読むこと」との連携に配慮した教材を掲載している。</li> <li>・「まなびリンク」を設け、デジタルコンテンツを活用して個別最適な学びに対応できるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まなびリンク」で「学習の進め方」を動画で確認できるようになっている。</li> <li>・実社会で活用できる「書式の教室」が設けられ、生涯にわたって活用できる力をつけられるようにしている。</li> <li>・理科のレポート、社会のノートなど、各教科の書く活動と連動して教材化している。</li> <li>・行書の筆使いが理解できるように、朱墨の図版がワイドな誌面で掲載されている。また、「まなびリンク」で運筆動画を設けることで、紙とデジタルの両輪で書く力を身につけられる。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」など、習得した書写の力を活用できるようにになっている。</li> <li>・書写の基礎基本が定着するように、写真や図版を活用して生徒が見てわかりやすいように工夫している。</li> <li>・「発展」を設けることで、高校で学習する内容への興味関心が高まるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のステップがわかるようにアイコンを提示するなど、生徒自ら学習手順がわかるように工夫されている。</li> <li>・文字に関するコラムが豊富で、文字に対する興味関心が高まるように工夫されている。</li> <li>・巻末資料の漢字一覧表は、50音順ではなく、共通する点画や似ている部分に分けて掲載されており、応用しやすく工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	書 写
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 三省堂	
書写 015-72 現代の書写一・二・三				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材の冒頭に「書き方を学ぼう」が設けられ、学習のポイントがひと目でわかるように明示されている。</li> <li>・各教材に「目標」「振り返り」が設けられ、生徒自身が主体的に学習に臨めるように工夫されている。</li> <li>・「書いて身につけよう」では、日常生活・社会生活で使う言葉や書き方を硬筆で練習できるようにになっており、実践的な力の定着が図れるようになっている。</li> <li>・小学校書写の既習事項の復習や高等学校書道の発展的な内容も盛り込まれており、小・中・高の接続についても配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書き方を学ぼう」では、書くためのポイントを整理し、他の文字にも応用できるようにしている。</li> <li>・「書いて身につけよう」など書き込み欄を設け、毛筆を硬筆で生かせるようにしている。</li> <li>・「学力テスト問題」を取り上げて、これまで学んだ内容を確認できるようにしている。</li> <li>・「振り返り」の課題があり、全国学力・学習状況調査等を意識して構成されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本編」・「資料編」の2部構成になっている。「本編」で必修の学習を扱った上で、「資料編」で日常生活・社会生活で必要になる書式を扱うなど、実生活に生かしていけるように工夫されている。</li> <li>・毛筆教材の後に「書いて身につけよう」、各学年末に「やってみよう」が設定され、学習した内容を他教材や他教科・社会生活に活用できるようになっている。</li> <li>・解説動画や補助教材など、生徒の理解を深めるデジタルコンテンツが準備されている。</li> <li>・コラムや補充教材が適宜配置されており、生徒の実情に合わせて、再確認やさらなる向上を目指した指導ができる。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材冒頭に「書き方を学ぼう」で書き方のポイントがひと目でわかるようになっている。また、巻末に「書き方を学ぼう」一覧があり、学習を振り返ることができるようになっている。</li> <li>・「書いて身につけよう」の例文に同学年で学習する教材の言葉や一節をとりあげるなど、国語との連携を図り、語彙や文章を学びながら書き方を定着させる工夫がなされている。</li> <li>・現代社会で活躍する「手書き文字」の達人を取り上げ、文字文化との関わり方を考えられるようになっている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

**社 会 (地理的分野)**

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	社会 ( 地理的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	株式会社 帝国書院	
地 理 046-72 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	地 理 046-72 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土			
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能および知識を身につけるために、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」いずれの内容においても、地図や主題図、統計資料等を用いて、異文化理解や国土理解が深まるように配慮されている。</li> <li>・ 「節 ( 章 ) の問い」を受けた「学習課題」を各見開きに設置し、「学習課題」に対応した「確認しよう/説明しよう」が設置されている。また、単元末に「学習を振り返ろう」が設置され、「地理的な見方・考え方」を働かせて課題を振り返り、思考力・判断力・表現力を高め、協働的な学習を実践する場が設定され、「深い学び」を実現できるように配慮されている。</li> <li>・ 理解しやすい本文と、興味・関心を高める写真、地図、グラフなどが大きく見やすく提示され、意欲的に学びに向かう態度が育成されるよう工夫されている。</li> <li>・ コラム「アクティブ地理 AL」では全4テーマを設け、地域課題に対して自分の意見をまとめる、他者と意見を交換するなどの活動を通じて、課題に粘り強く向き合い、さまざまな立場を踏まえて、今後自分がどのように社会参画していくのかを、主体的・対話的に学習できるよう配慮されている。</li> <li>・ 学習を見通すQRコード (見通しスライド)、「NHK for School」「リンク集」など、生徒がみずから学習内容を深める手助けになるようなコンテンツが示され、生徒の個別最適な学び支援する工夫がされている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「技能をみがく」が全21か所に設けられており、グラフの作り方、読み取り方、などの学習に必要な地理的技能を習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 小学校の既習内容を振り返りながら、発達の段階に応じて思考を伴う活動が行えるよう工夫がなされている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の教材構成、配列は適切である。</li> <li>・ 「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開が統一され、学習の見通しと振り返りがしやすい最適な単元構成がされていて、学習内容が定着するように配慮されている。</li> <li>・ 単元、章を貫く課題が導入部だけでなく、本時の学習課題の下に常に提示されており、一定の学習課題を意識し課題に取り組むことで、各単元で設定されている問いの構造図に沿って主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最新の動向を伝える写真が数多く掲載されているだけでなく、各ページに大きな写真が掲載されており、社会への興味・関心を広げて、学習内容の理解につなげる工夫をしている。</li> <li>・ ユニバーサルデザインフォントをはじめ、図版に背景色や囲み線をつけるなどして、インクルーシブ教育に配慮されている。</li> <li>・ 写真や地図、雨温図などの位置を固定化することで、前時間の振り返り、他の諸地域との比較などを意識した視点で学習できるように工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 (地理的分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	東京書籍 株式会社	
地 理 002-72 新編 新しい社会 地理	地 理 002-72 新編 新しい社会 地理			
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元として、課題をつかむ、課題を追求する、課題を解決するという問いの構造化がわかりやすく示され、単元の見通しをもたせるコーナーや、世界や日本各地の中学生が、自分が暮らす地域を語るコラムなどが掲載され、『主体的・対話的で深い学び』の実現に配慮した内容となっている。</li> <li>・ 1時間の授業流れを「見える化」し、導入資料 → 学習課題 → 本文 → チェック&amp;トライと学習に取り組みやすい工夫がされている。</li> <li>・ 「ベン図」「フィッシュボーン」「ウェビング」など、多様な思考ツールを活用し、学習内容を考察する「まとめの活動」を設けることで、思考を整理し、深い学びにつなげることで、思考力・判断力・表現力を高められるよう配慮されている。また、QRコードも掲載されて活用できるように工夫されている。</li> <li>・ 「みんなでチャレンジ」でのグループ活動が設定され、協働的に学習する場、対話的な活動から探究課題を設定できるよう配慮されている。</li> <li>・ 難しい用語の解説を随所に配置し、各単元のまとめには用語の確認をするワードチェックが設けられており、理解が深まるよう配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「世界の窓」を設け、世界の諸地域の特色を表す写真資料を多く取り上げ、その中で「自然環境」「地域の特色」「生活・文化」など、テーマに沿った写真をもとに学習の見通しもちやすくなるよう配慮されている。</li> <li>・ 各単元のはじめの「導入の活動」では、小学校での既習内容をふまえた上で協働しながら学習に取り組めるような活動を設けている。また、単元終わりの「まとめの活動」では、学習した内容を関連付けながら、探求的な学習に取り組めるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の教材構成、配列は適切である。</li> <li>・ どの単元も導入からまとめの活動に向けて、単元を通した学習課題の解決への流れが視覚的に捉えられるよう配慮されている。また、QR コンテンツも定位置に掲載され、活用できるように工夫されている。</li> <li>・ 教科書の随所に QR コンテンツが動画は128か所、思考ツールが19か所、他分野・他教科とリンクが20か所と多く記載され、ICT を活用した個別最適な学びを実践する工夫がされている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カラーユニバーサルデザインに全対応、ユニバーサルデザインフォントの使用、写真や図版の拡大、総ルビ、分かち書きで表現するなど、特別支援教育に関する配慮もされていて、多様性に配慮されている。</li> <li>・ 現代的な諸課題解決に主体的に取り組む態度を育成するために、地理・歴史・公民の分野の枠をこえて貫く「環境・エネルギー」「防災・安全」などの5つのテーマをもとに、社会とつながり、持続可能な社会をつくる一員としての教育が工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 地理的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	日本文教出版 株式会社	
地 理 1 1 6 - 7 2 中学社会 地理的分野	地 理 1 1 6 - 7 2 中学社会 地理的分野			
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導と評価を計画に基づいた「問いの構造」を可視化し、「単元を貫く問いを立てる」→「学習課題を追求する」→「単元を貫く問いを解決し、振り返る」→「議論をする」という流れにより、主体的・対話的で深い学びを実現できるように工夫されている。</li> <li>・「世界の諸地域」、「日本の諸地域」のいずれの内容においても、地域の概要をつかむ大観ページを設けており、学習の見通しを示した上で地域的特色を捉えられるよう配慮されている。</li> <li>・生徒の興味・関心を高める導入資料 → 学習課題 → 本文・図版 → 確認・表現というように、1時間の流れを可視化することで、授業1時間で何を学ぶのか、どのようなことに着目して学習を進めるのかなどがわかるように工夫されている。</li> <li>・「スキルUP」「資料活用コーナー」を活用して、1単位時間の中で、思考力・判断力・表現力の向上を図る場面が設定され、生徒が自分の言葉で表現できるよう配慮されている。</li> <li>・まとめ・振り返りのページでは「議論してみよう」が設置され「構想」に取り組むことにより、主体的・対話的で深い学びを実現する工夫がされている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く問いを軸に、1単位時間の学習課題に対応した、見方・考え方が明記されており、その見方・考え方をもとに思考力・判断力・表現力が高まるよう配慮されている。</li> <li>・QRコンテンツが301か所設置されており、内容も「ポートフォリオ」「イントロダクションムービー」「確認小テスト」を3つの柱として系統的に設置し、個別最適な学びを実現する工夫がされている。また、生徒の自主学习や家庭学習も支援できるように配慮されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の学習では、州や地方の豊富な写真等で視覚的に捉えて単元の導入とし、次に、毎時間学習課題を追求して単元を振り返りまとめるという基本構成になっている。</li> <li>・「地理+α」や「スキルUP」のコーナーで、社会科の歴史的分野、公民的分野、また、他教科に関連した教材を多数掲載しており、相互に関連させながら学習を進められる。教科書全体として、道徳科との連携も取り扱っている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色 ( カラーユニバーサルデザイン ) や、レイアウト、表現方法、文字 ( ユニバーサルデザインフォント ) などの工夫により、全ての生徒が学びやすいように配慮されている。</li> <li>・自然災害、防災・減災 ( 自助・共助・公助 ) についても実践的な学習を設定し、新しい時代を担う主権者を育てる工夫がされている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 地理的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	教育出版 株式会社	
地 理 017-72 中学社会 地理 地域にまなぶ	地 理 017-72 中学社会 地理 地域にまなぶ			
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地理的な見方・考え方」をはたらかせた学びを明示する「とびらページ」を設けることにより、学習を始める章の「章を見通した学習課題」提示し、見通しを意識できるように工夫されている。</li> <li>・「地理の技」のコーナーでは、世界・日本の略地図の描き方、グラフの読み取り方、地形図の読み取り方など、基本的な地理的技能を身につけやすいように配慮されている。</li> <li>・各単元で「学習テーマ」を設定し、問いに基づいて学習を進めることで地域ごとに異なる現象の現れ方を理解できるよう工夫されており、本時の授業の最後に学習内容の定着を図るための「確認」や単元の最後に「学習のまとめと表現」で確実に知識を習得できるよう配慮されている。</li> <li>・「編・章の導入部」では、見通しをもった学習と生徒の関心をひく工夫がされている。また、それにともない各章末では、導入部で示した「問い」を軸に、基礎・基本の確実な定着から、意見をまとめて表現する、話し合う活動まで、幅広く段階的におこなう配慮がされている。</li> <li>・「学習したことを活用してまとめよう」のコーナーが設けられ、「～を話し合おう」と記し、学び合う活動を確保することで主体的・対話的で深い学びにつながるよう配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ページに掲載されている写真資料には、建造物や伝統工芸品などに対する人々との関わり方や暮らしに根付いた様子などが理解しやすいものが多く、身近な地域から社会を考えることができる教材・内容で、多様な疑問をもったり、興味関心をもって課題に取り組んだりしやすいよう工夫されている。</li> <li>・コラム「地理の窓」では、学習内容から興味や関心を広げていけるようなトピックスを多数掲載しており、身につけた知識をもとに、さらに発展的な学習が行えるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の学習ごとに、「学習課題」と対応させた、「確認」と「表現」のコーナーが設けられている。</li> <li>・学びを助ける「LOOK」「THINK」「TRY」が本文の流れに即して示されており、視点や考察のポイントを提示し、内容にもう一步踏み込んで、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。</li> <li>・本文の右ページ下には、地理の他ページの関連のほか、他分野との関連を示すように配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色や、レイアウト、表現方法、文字（ユニバーサルデザインフォント）などの工夫により、全ての生徒が学びやすいように配慮されている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

社 会 ( 歴 史 的 分 野 )

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	社会 (歴史的分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	東京書籍 株式会社	
歴史 002-72 新編 新しい社会 歴史	歴史 002-72 新編 新しい社会 歴史	歴史 002-72 新編 新しい社会 歴史		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では、課題探究の設定につながる資料や活動が設けられ、主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫が随所に見られる。節のまとめでは段階的に取り組むことで、単元を貫く探究課題の解決につなげ、無理なく時代全体を大観できるような流れになっている。また、フィッシュボーンやチャート図、ランキングなど、思考を整理するさまざまなツールが用意され、紙の教科書とQRコンテンツを組み合わせることで、多様な活動が展開できるようになっている。年表では、前章の振り返り、次章の見通し、その時代の特色をつかむことができる。</li> <li>・QUコンテンツから、時代を見通すことができる導入クリップ、資料や動画、前の時期の地図と比較ができる地図コンテンツやデジタル版用語解説、また、思考ツールを活用することができ、生徒の個別最適な学びや協働的な学びを支えられる工夫が施されている。また、写真、グラフなど多彩なQRコンテンツが利用できる。</li> <li>・歴史の学習を始める前に歴史的な見方・考え方を学んでから、「みんなでチャレンジ」で見方・考え方を働かせ、且つ、小集団の協働的な活動を通して他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整していくことで、主体的に学習に取り組む態度を養えるようになっている。また、現代的な諸課題として「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「情報・技術」「防災・安全」のテーマに沿ったコラムが用意されている。さらに、持続可能な社会の実現に向けて各地で見られる様々な取り組みを考えるきっかけとなる「未来にアクセス」が設けられ、多様な視点から考察できるよう工夫がされている。</li> <li>・巻頭や章末には「資料から発見!」や「もっと知りたい!」「地域の歴史を調べよう」など、多角的な視点から歴史を考察する機会を提供している。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の発達段階に適した難易度で記述され、歴史上の人物や出来事についても、バランスのとれた記述がなされている。</li> <li>・生徒の興味を引く話題や現代との関連性のある題材が多く選択されている。</li> <li>・本文や資料、「チェック&amp;トライ」、年表スケールインデックスやQRコードなど紙面の要素を定位置に配置し、学習の流れを見える化され、学習に取り組みやすい紙面である。また、資料掲載部分に背景色が入っているため本文との区別が視覚的に分かりやすい。グラフの色は色覚特性のある生徒でも見分けられる色の組み合わせを採用している。</li> </ul>			
3 組織・配列等 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章に「歴史の流れ」を配し、古代、中世、近世、近代(2章)、現代の7章構成となっており、時系列に沿って配列されている。</li> <li>・古代から現代までの我が国の歴史を、毎時間の課題を基に、政治・人々の生活・文化を関連付けて系統的に学習できる構成になっている。</li> <li>・「Dマーク」が付属している単元では、インターネットを使って、関連する教科の教科書紙面を見ることができ、多角的な視野に立ち、教科横断的に関連付けながら補充的な学習に取り組める。また、他分野と共通で掲載している資料や特設ページには、マークを表示することで地理分野や公民分野を意識した展開となっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な見方・考え方を育成する「歴史スキルアップ」が設けられている。</li> <li>・多様な資料(文書、絵画、統計など)を活用した学習活動が豊富に用意されている。</li> <li>・日本と世界の歴史の関連性を示す年表や図解が充実している。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 歴史的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年		
歴史 046-72 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	歴史 046-72 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	歴史 046-72 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	株式会社 帝国書院	
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時代を大観し、特色を理解させるために、各章の冒頭に、絵画や写真、遺構などの歴史的資料に基づいた「タイムトラベル」が設けられている。政治・経済・文化を描いたイラストから、時代の特色をつかむための着眼点や学習活動が設けられている。各章、節、見開きごとに問いが構造化され、単元を通してそれぞれの問いに「歴史的な見方・考え方」を働かせて学んでいくことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。また、「タイムトラベルの」世界史版として「世界とのつながりを考えよう」が新設され、日本との関連をつかむための解説や学習活動が設けられた。日本の歴史を世界の中に位置づけて捉えることもできるようにしている。</li> <li>・ 多面的・多角的に考察する力を育むために、一つの歴史的事象について、地域で活躍した人など、さまざまな立場の人々の見方を示す資料を掲載している。特設ページ「歴史を探ろう」では、当時の社会を地方の視点から見ること、日本の歴史を多面的にとらえられるようにしている。琉球とアイヌの民族の歴史は古代から伝代まで一貫して取り上げている。また、文化史のページでは、各時代の代表的な文化を大きな図版で紹介し、伝統文化への関心を高められるようにしている。</li> <li>・ 主体的・対話的で深い学びを実現するために、章、節、開きが構造的に作られている。「章の学習を振り返ろう」では、「タイムトラベル」を活用して思考ツールを活用し自分なりに考えを整理し、次にグループ等で話し合い、最後に再度自分の言葉でその時代の特色を説明できるように構成されている。また、「アクティブ歴史」では対話を通して、課題に粘り強く向き合う姿勢や、意見交換を通して合意形成を目指す態度を身につけられるように工夫されている。</li> <li>・ SDGsの視点に立ち、「未来に向けて」というコラムで「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の観点で、社会的な課題に主体的・対話的に考えられる工夫がなされている。また、最終単元では、歴史で学んだことを未来に生かす「これからの社会を構想しよう」が設けられ、よりよい社会の実現に向けた参画意識を育むことができるようにしている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1章の冒頭の「歴史をたどろう」では、歴史上の人物や文化遺産に関する資料が提示されており、小学校の学習を振り返りながら、中学校の学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</li> <li>・ 各時代の文化や生活に関する記述が充実しており多角的な歴史理解を促している。</li> <li>・ 補充的な学習、発展的な学習への配慮として、概念や理解しづらい用語が扱われているページには、丁寧な解説や本文と連動した資料などが設けられている。また、QRコンテンツが391用意され「個別最適な学び」を支援している。</li> </ul>			
3 組織・配列等 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1章に「歴史のとらえ方と調べ方」を配し、原始・古代から現代までの6つの章で構成されており、歴史的な見方・考え方を働かせ、各時代の特色を捉えることができるよう配慮されている。</li> <li>・ 本文ページの下段に、「小学校・地理・公民との関連」というコーナーが設けられ、既習内容や他分野への関連が図られている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図や図版、写真が豊富に使用されており、視覚的に歴史を理解できる工夫がなされている。</li> <li>・ 現代社会との関連性を意識した記述が多く、歴史学習の意義を実感できる内容。</li> <li>・ デジタル教材との連携が充実しており、ICTを活用した学習にも対応している。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 歴史的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	株式会社 育鵬社	
歴史 227-72 新しい日本の歴史	歴史 227-72 新しい日本の歴史	歴史 227-72 新しい日本の歴史		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各章の冒頭には、小学校で学んだ歴史の流れを体感できる「歴史絵巻」が設けられ、登場人物たちが投げかける質問によって、大きな流れとその時代の特色を振り返りつつ、章の学習を貫く「章の課題」を意識しながらその後の学習に取り組めるようになっている。また、「虫の目で見ると」ページでは、資料読み取りのポイントを押さえながら、節の課題をもてるような工夫がされている。</li> <li>多面的・多角的に考察する手立てとして、「歴史ズームイン」「TRY!」の中で詳しく取り上げるなど、文化に関する学習が充実している。「歴史ズームイン」では、多様な視点からみたエピソードなどが盛り込まれている。歴史学習の最後には、「日本の歴史を大観する」という大きな課題を用意し、歴史を自分の言葉で表現できるようになっている。</li> <li>1 単位時間の学習課題と節の学習課題とを関連させながら学習を進めることができるよう、各見開きに「節の課題」が提示されており、節全体の学習の見通しをもち、課題追求的な学習に取り組むことができるように工夫されている。また、章ごとの「学習のまとめ」では、時代の変化や特色を捉えられるような言語活動が設けられており、説明し合う活動を通して深い学びにつなげることができるよう工夫されている。</li> <li>「人物クローズアップ」「歴史ビュー」では、我が国の発展に貢献した歴史上の人物を男女・国内外を問わず取り上げ、日本独自の伝統文化の内容を充実し、日本の歴史・文化・社会を尊重する態度を養うための工夫がなされている。</li> <li>他社ではあまり見られない写真や地図、グラフ、文書資料などが豊富に掲載されている。資料番号を本文中にも挿入し、本文と資料との関係を捉えやすくする工夫がみられる。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>各章及び各単元の導入には、問題提起となるような発問等を用意し、生徒が興味・関心を高めながら課題に取り組んだり、学習を進めたりできるように配慮されている。また、序章では、小学校で学んだ歴史上の人物をカードにまとめる活動を紹介し、時代をとらえ学習活動に取り組みやすくするとともに、中学校の歴史学習との接続も配慮している。</li> <li>「歴史ビュー」「人物クローズアップ」「歴史ズームイン」などによって、多面的・多角的な視点で補足的、発展的な学習に取り組めるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列等 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>序章に「年代や時代区分の表し方」を位置づけるとともに、原始・古代から現代を6章で構成されており、教材の構成・配列ともに生徒が円滑に学習することができるように配慮されている。各章の扉で100年を1cmとする年表を掲載し、学習する時代が一目で分かる視覚的な工夫がなされている。</li> <li>日本や郷土への関心や愛情を深めると共に、他民族の文化や生活に関心をもち、尊重できるような道徳的な内容が含まれている。また、近現代の学習単元を通して公民的分野への関連が図られている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るく見やすい色彩デザイン、鮮明な写真の使用、ルビ、丁寧な説明など、生徒にとって分かりやすい教科書となっている。また、地理的な概念が理解しやすいように、適宜必要となる地図等を配置している。</li> <li>巻頭の「日本の美の形」では、美術工芸品を通して日本人の歴史をたどるページが設けられている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 歴史的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	教育出版 株式会社	
歴史 017-72 中学社会歴史未来をひらく	歴史 017-72 中学社会歴史未来をひらく	歴史 017-72 中学社会歴史未来をひらく		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各章扉では、当時の人々の暮らしの様子が分かる資料が提示されており、資料の読み取りを通して時代の特色を捉えるとともに、章の学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。章末に設けられている「学習のまとめと表現」で、時系列に沿って東アジアを含む世界との関連付けが図られ、我が国の歴史の大きな流れを理解し、まとめる工夫が施されている。</li> <li>コラムや特設ページによって、本文とは異なる視点から歴史を捉え、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。また、歴史上の多様な人物を取り上げ、各時代におけるさまざまな考え方や、対立などについて理解し、考察できるように配慮されている。見開きごとに設けられた「確認／表現」、各章末ごとに設けられた「学習のまとめと表現」、学習の流れに即して設けられた「読み解こう」などにより、①資料の読み取りや調べ学習、②資料の比較などを通し、多様な言語活動が取り入れられるよう工夫されている。</li> <li>人権、福祉、環境問題などの歴史、課題や取り組み、地域社会の歴史や現状を学習し考察することを通して、SDGsについて歴史的な観点から迫り、第7章や公民への学習にスムーズに接続できるように配慮されている。</li> <li>写真や地図、グラフ、文書資料などが適切に掲載されている。資料番号を本文中にも挿入し、本文と資料を結び付けて学習を進めることができるよう配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校での歴史学習への接続が図られるよう、小学校の教科書で登場したキャラクターが中学生に成長した姿で登場し、共に学びあう意識が連続するように工夫されていたり、第1章では、小学校で学習した歴史上の人物や文化財を振り返り、時代の移り変わりを考える学習活動が設けられたりしている。また、本文記述と資料が視覚的にとらえやすく配置してあり、写真や絵地図等の資料が豊富で、生徒の興味・関心を高められるよう工夫されている。</li> <li>協働的な学習や自主学習をする際に活用しやすいよう、学び方や調査の進め方を解説するページや、資料ページが設けられている。また、各章扉に「まなびリンク」が設けられ、専用のウェブサイトから様々な情報を生徒自身で入手できるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列等 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1章に「歴史のとらえ方」を配し、全体を7章に分けて構成し、時系列に従って配列されており、生徒が円滑に学習を進めることができるよう配慮されている。また、各時代の学習は、イラストを使って興味・関心をもたせる導入部、資料を読み取りながら課題について追及する展開部、学習をまとめる終末部の配列で構成されており、生徒が系統的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>巻末の史跡地図や本文中の地図資料、各章末の「学習のまとめと表現」では、歴史の出来事と関係の深い場所を地図上に書き入れる課題があり、地理的分野との関連が図られている。また、7章の最後には、現代社会の課題と自分との関わりを考察する学習課題が設定され、公民的分野への橋渡しができるような構成となっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生徒にとって見やすい ( カラーUD )、読みやすい文字 ( UDフォント ) を使用し、図版資料などのレイアウトも工夫している。</li> </ul>			

			種 目	社会 (歴史的分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 山川出版社	
歴史 081-72 中学歴史 日本と世界 改訂版	歴史 081-72 中学歴史 日本と世界 改訂版	歴史 081-72 中学歴史 日本と世界 改訂版		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の扉に古代から現代までの各時代の帯年表を入れ、一目でその時代の日本と世界の大きな流れを理解できるように構成している。また、その時代を象徴する絵画資料や写真を上下に配置することで、視覚的に時代の大きな流れや変化を理解できるようにしている。</li> <li>・各単元の導入の発問など各所に設け、自ら考え、判断する力を養えるように工夫されている。また、異なる立場の資料を取り上げることで、さまざまな立場を考慮し、公正に選択・判断できるように作られている。</li> <li>・よりよい社会を実現する態度を育成するために、「地域からのアプローチ」では、生徒が主体的に取り組めるよう、調査の手順や注意事項が丁寧に説明されている。また、SDGsの視点に立ち、近現代の人種や環境などの問題を通して考えられるよう構成されている。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを実現するために、史料や資料が多く配置されている。これは、史料(資料)との対話という側面があり、ポイントを押さえながら生徒自身が読み取るように構成されている。また、各章末の「まとめ」では、各時代において、自分をその当時の立場に置き換えて考えをまとめる活動が設けられている。</li> <li>・写真や地図、グラフ等が効果的に且つ豊富に掲載されている。本文中に資料番号を挿入し、本文と資料との関係がとらえやすくなっており、本文と資料の関係は適切である。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発達段階等を考慮し、第1章「歴史との対話」では、小学校で学習した人物から時代区分を学べるようになっていいる。高校の教科書の構成に沿った流れと文体とすることで、高校進学後の学習をスムーズに始められるように意図されている。</li> <li>・各見開きの最後に、「ステップアップ」という発問が用意され、その授業で学んだことを整理するだけでなく、その後の歴史にどのような影響を与えるのかなど、さらに課題を追求していけるように工夫されている。また、「歴史へのアプローチ」では、さまざまな視点で捉えた10のテーマによって、発展的な学習に取り組めるよう構成されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章に「歴史との対話」を配し、原始・古代から現代まで6章で構成されており、全体の教材構成、配列は適切である。</li> <li>・地理的分野や公民的分野との関連として、日本の領土の歴史や、古代ギリシャを通じた主権者教育が紹介されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学の研究方法や歴史の見方・考え方を学ぶコーナーが充実している。</li> <li>・歴史的解釈の多様性を示す「多角的にみる歴史」というコーナーを設けている。</li> <li>・2, 8, 13, 16, 18世紀の世界の様子を地図とイラストで紹介し、グローバルな視点で世界を見つめると共に、高校進学後の「歴史総合」への接続を促している。</li> </ul>			

			種 目	社会 (歴史的分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 自由社	
歴史 225-72 新しい歴史教科書	歴史 225-72 新しい歴史教科書	歴史 225-72 新しい歴史教科書		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の目標・内容をふまえつつ、日本の伝統や文化を重視した記述がなされている。</li> <li>・扉に古代から現代までの各時代の常年表を入れ、一目でその時代の日本と世界の大きな流れを理解できるように構成している。また、その時代を象徴する絵画資料や写真を上下に配置することで、視覚的に時代の大きな流れや変化を理解できるようにしている。</li> <li>・史料や資料が多く配置されている。説明も因果関係が丁寧に記述されており、読みやすい内容になっている。また、毎時間ごとのページにイラストと吹き出しがあり、さらに内容を理解しやすくする工夫がされている。</li> <li>・愛国心や国民としての誇りの育成を意識した内容構成となっている。</li> <li>・近現代史において、多くの資料が用意されており、日本の歴史を知ることができる。また、日本の立場を強調する傾向もみられる。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の発達段階を考慮した記述がなされている。一部に難解な表現もみられる。</li> <li>・日本の歴史や文化に関する話題や題材が多く選択されている。</li> <li>・国際関係や外交問題の取り扱いにおいて、日本の立場を強調する傾向がある。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序章に「歴史のとらえ方」を配し、原始・古代から現代まで6章で構成されており、全体の教材構成、配列は適切である。</li> <li>・各章の冒頭に小学校で学んだ人物を時代順に配列したものが示され、学習の見通しを立てやすくなっている。章末に、「調べ学習のページ」「復習問題のページ」「時代の特徴を考えるページ」「対話とまとめ図のページ」を設け、学習内容の定着と発展的学習を促している。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統文化や偉人に関するコラムが充実している。</li> <li>・「もっと知りたいコラム」「外の目から見た日本」「人物クローズアップコラム」を設け、日本の伝統文化や偉人に関するコラムが充実している。</li> <li>・近現代史において、日本の行動や政策を肯定的にとらえる記述が多くみられる。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 歴史的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	日本文教出版 株式会社	
歴史116-72 中学社会 歴史的分野	歴史116-72 中学社会 歴史的分野	歴史116-72 中学社会 歴史的分野		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時間の「学習課題」を積み重ねて「節の問い」や「章の問い」を解決する構造になっている。導入ページの「トライ」の資料を読み取る一連の活動では、見方・考え方を働かせた着目点を示されており学習の見通しを立てやすくする工夫がされている。また、章のまとめでは、習得した知識を活用してその時代を大観し、時代の特色を大きくとらえる学習活動を一貫して配置することで、時代の特色を踏まえて我が国の大きな歴史の流れを理解できるよう工夫されている。</li> <li>歴史的な見方・考え方を身に着け、多面的・多角的に考察する力を育むために、1 単元ごとに、比較、推移などの視点を明らかにし、「表現」という活動によって、自己の考えを表現できるようにしている。</li> <li>SDGsの視点に立ち、よりよい社会を実現していこうとする態度を養うために、現代的な諸課題の解決に取り組んだ先人の姿を詳しく解説した「『歴史との対話』を未来に残す」という学習が設定されている。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを実現するために、各編(章)に一つずつ「チャレンジ歴史」が設けられ、複数の資料をもとに、歴史について自分で考えたり、対話したりする活動が設けられている。</li> <li>写真や地図、グラフ等が効果的に且つ豊富に掲載されている。本文中に資料番号を挿入し、本文と資料との関係がとらえやすくなっており、本文と資料の関係は適切である。また、QRコンテンツも豊富に用意され、ポートフォリオの作成、ショートムービー、ミニテスト、思考ツール、年表など437コンテンツで個別最適な学びを進めることができる。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>各編の導入の年表において、小学校で学んだ人物・文化遺産などを再確認させ、中学校の歴史学習にスムーズに移行できるよう工夫されている。本文と関連した豊富な図版によって、時代像を具体的にイメージすることができ、生徒の興味・関心に適応するよう配慮されている。</li> <li>デジタルマークが設けられ、発行者がウェブサイト上で公開している画像やワークシート等の教材に生徒がアクセスし、補充的な学習や発展的な学習に取り組めるように工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列 等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1編に「私たちと歴史」を配し、原始・古代から現代まで5編、そのうち近代は2章で構成し、全体の教材構成、配列は適切である。</li> <li>古代から現代までの我が国の歴史を、毎時間の課題を基に、系統的に学習できる構成になっている。各ページの右端の年表には、学習する時代の範囲が明示されている。</li> <li>地理的分野とは、各編の冒頭部に同時期の世界の情勢を親しみやすいイラストを添えた地図を用いるなど、空間的な見方から史実を的確に捉える工夫が施すことによって、連携を図っている。公民的分野とは、「『歴史との対話』を未来に残す」などで、課題に対する歴史的背景を明らかにすることで連携を図っている。また、防災などを扱う単元については、数学や美術、道徳で教科横断的な展開をしている。</li> </ul>			
4 本書の特徴 点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育やCUDの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるように、レイアウト、フォント、配色等に配慮されている。また、開きやすく閉じやすい工夫を施したり、前作より約5%の軽量化を実現したりと、製本にも生徒への配慮が見られる。</li> <li>東京2020オリンピック・パラリンピック及び2025年大阪・関西万博について特設ページで扱い、近代オリンピックの理念や日本の関わりなどが学べるように構成されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 (歴史的分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	令和書籍 株式会社	
歴史 236-73 国史教科書 第7版	歴史 236-73 国史教科書 第7版	歴史 236-73 国史教科書 第7版		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代の年表中に世界の歴史的な出来事が併記されており、世界の歴史と関連させて日本の歴史の流れを理解することができるよう配慮されている。各章の終末には、時代の特色をについて表を使って整理したり、比較、関連付けて考察したりするまとめの学習活動が設定されており、学習内容を活用しながら理解を深めることができるよう配慮されている。神話から現在までの日本を、天皇や政治を重視した記述がなされている。</li> <li>・「序 国史を学ぶにあたって」では、時代の表し方や歴史的な見方・考え方が掲載されており、学習を通して社会的事象のつながりや相互の関連を意識して考察することができるよう配慮されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・因果関係が丁寧に記述されており読みやすくなっている。特に政治に関しては、資料とともに本文のボリュームも多い。</li> </ul> </li> <li>・近現代史において、多くの資料が用意されており、日本の歴史を知ることができる。また、日本の立場を強調する傾向もみられ、愛国心や国民としての誇りの育成を意識した内容構成となっている。</li> <li>・各章の冒頭において学主課題を設け、終末において学習内容をまとめる活動が提示されており、生徒が見通しをもったり、学習内容を振り返ったりするなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、「ディスカッションしよう」など、学習したことを基に話し合う活動が設定されており、対話的な活動を通して、生徒が自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序の「小学校で学んだ人物や文化」では、小学校で学んだ人物や文化をカードにまとめる活動が設定されており、小学校で学習した内容を基に中学校での歴史学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</li> <li>・各章の冒頭に「政治」「外交」「文化」「産業」の4つの視点で問いが提示されており、生徒の興味・関心を高め、学習に取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>・「新聞にまとめてみよう」では、新聞の作り方を例示しており、生徒が学習内容を踏まえて自ら調べたことをまとめるなど、主体的に課題追究できるよう配慮されている。</li> <li>・史料や資料が多く配置されている。掲載の仕方は統一されていないが、ページ全体に掲載され、詳細な解説がついているため、中学生でも理解しやすい。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序章に「国史を学ぶにあたって」を配し、原始・古代から現代まで6章で構成されており、生徒が歴史の流れを捉えながら学習ができるよう配慮されている。</li> <li>・巻末資料には、各時代の世界地図や日本地図が掲載されており、地理的分野との関連が図られるよう配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各国王朝年表や席代天皇の皇位継承図を設けてあり、特に、近代における天皇の記述が多い。</li> <li>・巻末の「日本美術図鑑」を設け、古代の美術品から現代にいたるまでの作品の紹介が充実している。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

**社 会 ( 公 民 の 分 野 )**

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	社会 ( 公民的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
公民 002-92 新編 新しい社会 公民				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入→展開→まとめという学習活動に対し、学びの流れが「単元を貫く探究課題・1時間ごとの学習課題・単元をふり返る探究のステップ」と設定され、段階を踏んで課題を解決できる構成により、課題解決的な学習が展開されるよう工夫されている。</li> <li>・課題を追究する過程において、1時間の授業ごとに学習のめあてを提示する「学習課題」＝（?マーク）、社会的な見方・考え方を働かせる「虫眼鏡マーク」、学習課題を解決するための「チェック」＝（レ点マーク）、学んだことをふり返るための「TRY」が、見開き2ページの中に掲載されている。</li> <li>・「チェック」では基礎・基本事項を確認し、「TRY」では要約や説明をする言語活動が設定されている。</li> <li>・「スキル・アップ」コーナーがあり、例えば「SNSのメディアリテラシーを身に付けよう」や「雇用契約書を見てみよう」など、公民学習に欠かせない基礎的・基本的な技能を身に付ける為の工夫が見られる。</li> <li>・章末には「まとめの活動」のページがあり、各節ごとに「探究のステップ」とする課題解決を補助する問いが段階的に提示されている。これらは「節の問いを解決しよう」という表現で全単元統一され、各単元における導入活動とリンクさせたまとめの活動が設定されている。さらに、その「問い」を解決する過程において、トールミン図法や座標軸など多様な思考ツールが提示され、思考を整理するのに効果的である。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の終末部にある「確かめよう」では知識習得を目的とするまとめのページが設定され、重要語句を見直したり説明したりする活動を通して、学習内容を定着できるよう配慮されている。また、「ふり返ろう」では、まとめることを通して主体的に学習に取り組めるよう、学習の流れが示されている。さらに、「深めよう」では、新たな視点での資料や問題が提示され、思考・判断・表現を発展させることができるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元は現代社会、政治、経済、国際社会の順に配列され、適切かつ適量である。</li> <li>・各ページには二次元コードがあり、地理的分野や歴史的分野の関連ページを見ることができる。また、他分野・他教科関連マークがあり、視覚的にも関連や一目でき、他教科と関連する内容であることが教科横断的に学びを広げられるよう工夫されている。また、鉛筆マークでは小学校社会科で身に付けた技能を活用するよう工夫されている。</li> <li>・Dマークコンテンツでは、デジタルコンテンツとリンクしており、授業だけでなく、家庭での予習・復習や、個別学習が可能であり、子どもが一人でも学習を広げられる学びの保障ができるようになっている。</li> <li>・各章の始めには多彩な資料が掲載され生徒の関心を引くとともに、「導入クリップ」「D-ZOOM」「ワークシート」「クイズで確認」等がQRコードで連携しており、前章・前節と比較させる工夫がある。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題追究の場面では、導入資料、学習課題、学習内容の説明本文、ふり返りが見開きページの定位置に配置されており、1単位時間の学習の流れを視覚的に捉えることができるだけでなく、インクルーシブ教育の視点からも配慮がなされている。</li> <li>・小学校の学習内容と関連する学習内容を示す資料には、関連を示すリンクマークが付されており、小・中学校の系統的学習が為されるだけでなく、既習事項と関連付けながら一人でも学習が進められるよう配慮されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 公民的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	公民 046-92 社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	株式会社 帝国書院
観 点				
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章が「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という流れで構成されており、章全体の学習内容の見通しをもった上で課題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>・各章の導入では、見開き2ページのイラストが掲載されており、イラストを読み取る活動を通して、章全体の学習内容を見通し、章の問いを立てることができるよう工夫されている。</li> <li>・各章のまとめでは、導入で設定した課題について解決を図る活動が設定されており、章の学習を通じて考えがどのように変化したかを捉えることができるよう工夫されている。</li> <li>・「確認しよう」「説明しよう」では、学習内容について振り返ったり、学習内容を基に、自分の考えを説明したりする課題が設定されており、基礎的・基本的な知識の定着や表現力の育成を図ることができるよう配慮されている。</li> <li>・「未来に向けて」では、持続可能な社会の実現に向けて6つのテーマの視点から問題提起されており、これからの日本の課題となるような事象と関連を図りながら考察することで、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>・図表や写真、グラフなどを読み取る活動が設けられており、現代社会に関する様々な情報を基に、調べまとめる技能を身に付けることができるよう工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考ツールを用いて学習内容を整理し話し合いを促す課題が設定されており、様々な立場や意見を踏まえて、公民的事象について多面的・多角的に考察できるように配慮されている。</li> <li>・各章始めの「学習の前に」では、単元を通して学習した内容を整理する活動が設けられており、自らの興味・関心に沿って探究課題を設定できるよう工夫されている。</li> <li>・実社会の具体的な事例や最新の動向を示す資料が掲載されており、生徒が身近な生活と関連付けながら現代社会の仕組みについて理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元配列は、現代社会、政治、経済、国際社会、課題探究学習の順である。全体の教材構成は適切であり、それぞれに配分されている分量や区分も適切である。</li> <li>・小学校の学習内容や他分野と関連する学習内容には、「他分野教科書リンク」が付されており、既習事項や他分野と関連付けながら学習に取り組み、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>・各題材では、「節の問い」が定位置に示されるだけでなく、「学習課題」「小学校・地理・歴史・他教科との関連」「&lt;学習の前に&gt;を振り返る」「確認しよう」「説明しよう」も定位置にあり、インクルーシブ教育の視点からも配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会で議論されている様々なテーマの賛否を示す「Yes No」が設けられており、他者の意見をふまえて自分の考えを形成することができるよう配慮されている。</li> <li>・「地図帳活用」マークが付されており、地図帳との関連や、資料活用との関連が図れるよう工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 公 民 的 分 野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 自由社	
公民 225-92 新しい公民教科書				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この教科書で学ぶにあたって」では、公民を学ぶ目的や教科書の使い方等が説明されており、生徒が見通しをもって主体的に公民の学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>・冒頭に「各章末の「学習のまとめと発展」の取り組み方」があり、「学習のまとめ」と「3つの問題」、「学習の発展」があり、各章末における学習の振り返りの方法やその目的が示されている。</li> <li>・1単位時間の学習内容について、押さえるべき重要語句の確認事項が掲載されており、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう配慮されている。</li> <li>・各題材では、見開きの右下に「ここがポイント」が位置付けられ、その題材で押さえるべき重要な確認事項について、①・②などとして簡潔にまとめている。</li> <li>・各章の終末に「学習のまとめ」が設定されており、示された最重要語句を自分の言葉で説明することで、学習内容について理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>・課題を探究するために、ディベートの仕方が紹介されており、学んだ知識や考え方を生かし、社会的事象について多面的・多角的に考察することで、自分の考えを整理したり、説明・議論したりする力を養うことができるよう工夫されている。</li> <li>・現代的な諸課題について、様々な立場からの考えが紹介されており、自分事として課題を捉え、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」では、調べたり、話し合ったりして解決を図る活動が設定されており、学習したことを基に発展的な内容に対する理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>・「やってみよう」では、授業のポイントとなる部分を表にまとめたり、グラフや資料を参考に話し合ったりするなど、対話的な活動が設定されており、生徒が学び合うことで理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>・「ミニ知識」では、本文と関連する公民的分野の重要語句を理解する上でヒントとなる事柄や、関連する話題が掲載されており、生徒がこれらに興味をもち主体的に学ぶための工夫がされている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配列は、現代社会、政治、経済、国際社会の順で、72からなる各題材が通し番号で示されている。</li> <li>・「もっと知りたい」では、「日本人の精神」「裁判員制度」「年金について考えてみよう」などについての内容が紹介されており、他分野や他教科との関連を図りながら、日本の現状や諸問題について考えることができるよう工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的分野の内容と関連するコラムや「アクティブに深めよう」を設けることで、他の分野における学習内容と関連させ理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>・各単元の重要語句はゴシック ( 太字 ) で示され、それらは巻末のさくいんに登録され、学習効果を高めるよう工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 公民的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 育鵬社	
公民 227-92 新しいみんなの公民				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章の始めに「章の入り口」が示され、各章で学ぶ内容の見通しをもち、生徒の関心を高める話題が取り上げられている。</li> <li>・「確認」では、1単位時間ごとに学習した内容について振り返る課題が設定されており、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるよう配慮されている。</li> <li>・「探究」では、これまでに学習したことを踏まえて、生徒に深く考えさせたい話題が取り上げられており、課題に対して調べたり説明したりすることを通して、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>・章の終末に位置付けられている「章のこれから」では、章で学習したことを基に学びを深めるための事例が示され、生徒が互いに意見を出し合い、見方・考え方を広げるような課題を取り組みながら、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>・章の終末に位置付けられている「学習のまとめ」では、章を通して学習した内容を振り返る課題が設定されており、重要語句を確認するとともに基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章の導入では、身近な諸課題に対して、複数からの立場の意見が提示されており、対話的な活動を通して、多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。</li> <li>・各章の終末では、学習内容を踏まえて、課題の解決に向けて話し合ったり、情報を整理したりする課題が設定されており、様々な表現活動を通して、説明・議論する力を養うことができるよう工夫されている。</li> <li>・「TRY!」では、発展的な内容を生徒が話し合ったり調べたりする対話的なコーナーが、見開きで設けられている。さらに、「話し合いのポイント」が示され、主体的・対話的で深い学びに向けて工夫されている。</li> <li>・「資料活用」のコーナーでは、本文と関係する資料が示され、基礎的・基本的な技能を習得するための工夫がなされている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元配列は、現代社会、政治、経済、国際社会の順からなる5章構成で、分量も適切である。</li> <li>・適所に、地理・歴史関連マークと、「→矢印マーク」である学習内容に関連した情報を示すマークが付されており、他分野との関連や他教科との関連を図ることができるよう配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭で「時間的つながり ( 縦軸 ) 」と「空間的ひろがり ( 横軸 ) 」が示され、これまで学習してきた地理的分野、歴史的分野などの学習内容と、これから学習していく公民的分野の学習内容がどのような位置にあるのか、概念図が示されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 公 民 的 分 野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育出版 株式会社	
公民 017-92 中学社会 公民 とともに生きる				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章の流れが、「問いを立て、学習を見通す」→「問いについて追究する」→「問いについてまとめ、振り返る」という、「問い」を軸にした一連の学習活動で構成されており、見通しと振り返りの学習活動が組織化されている。</li> <li>・各章の始めでは、「ウォーミングアップ! 公民」が設定され、QRコード付きで語句クイズとリンクされており、学習内容に関する語句や公民的事象について確認する活動が設定されており、基本的・基礎的な知識を身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>・各章の始めに「学習の見通し」の欄があり、各節の学習を通して解決を図る課題が示され、生徒が学習活動の見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるよう構成されている。</li> <li>・「LOOK!」「THINK!」では、学習課題の解決につながる資料が提示されており、資料から読み取ったことを手掛かりに、社会的事象の意味や意義について考察できるよう配慮されている。</li> <li>・本文中に「Q」や「見方×考え方」マークが設けられ、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて考えるための資料があり、深い学びを促す工夫がされている。</li> <li>・「公民の技」では、本文の流れに即した資料が提示され、個人やグループで読み取る活動を通して、資料活用能力の育成だけでなく、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の扉には、学習内容に関連する写真やイラストが掲載されており、学習内容に関する生徒の興味・関心を高め、意欲的な学習ができるよう工夫されている。</li> <li>・各章の終末部分には「学習のまとめと表現」が設けられている。「HOP」では基礎的・基本的な知識・技能を確認、「STEP1」では「章の学習のはじめに」での問いについてももう一度考え、思考力・判断力・表現力を育成、「STEP2」では章全体のテーマについて、文章や説明文などで思考力・判断力・表現力を育成するというように、段階的に発展学習に取り組めるよう、工夫が為されている。</li> <li>・章末の「JUNP」では、学習内容とさらに発展させる話題が紹介されており、学習内容を深めるとともに、社会的事象を多面的・多角的な視点から捉えることで、社会に目を向け主体的に社会参画が図れるよう工夫されている。「次章の学習に向けて」もあり、章と章の連結に対しても配慮がなされている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配列は、現代社会、政治、経済、国際社会の順で、経済分野が経済と社会保障の2章に分かれている。配列や分量は適切である。</li> <li>・冒頭で「公民の学習 全体のテーマ」として「私たちは、どのようにして持続可能な未来の社会を築くことができるのだろうか」が示され、小・中学校の系統性だけでなく、地理的分野・歴史的分野との系統性、現代社会・政治・経済・国際社会との系統性が示され、網羅されるようになっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まなびリンク」へQRコードからアクセスでき、動画やクイズ・ワーク、リンク集によって、補充的学習や発展学習など、生徒の主体的な学びにつながることを期待できる。</li> <li>・持続可能な社会に向けて「特設ページ」に13テーマが設けられている。例えば、「なぜ、ルールがあるのだろうか」と、生徒の興味を喚起させる問いを基に資料を読み深め表現したりすることで、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。</li> </ul>			

			種 目	社会 ( 公民的分野 )
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	公民 116-92 中学社会 公民的分野	
( 1年用 )				
公民 116-92 中学社会 公民的分野				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 単位時間の学習課題と併せ「節の問い」が提示されており、節の学習を通して解決を目指す問いについて意識させることで、生徒が見通しをもって課題追究的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>・ 各章、各節、1 単位時間のそれぞれにおいて、「問いを立て、学習を見通す」「問いを追究する」「まとめ、ふり返る」という課題追究的な学習過程が構成されており、課題解決に向けて、生徒が見通しをもち、自ら課題を追究できるような学習が取り組めるよう配慮されている。</li> <li>・ 「アクティビティ」では、社会的な見方・考え方を働かせて、学習内容の理解を深めることができるよう、課題が設定されており、主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう工夫されている。</li> <li>・ 章の終末に位置付けられている「まとめとふり返り」では、思考ツールを活用して、章の問いについて考える活動が位置付けられており、学習したことを整理し、考察を深めていくことができるよう工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理や歴史と関連する学習では、学習内容を想起させる問いが提示されており、現代的な諸課題と地理的分野、歴史的分野の関連を図ることで、多面的・多角的な視点から社会的事象を捉えることができるよう配慮されている。</li> <li>・ 「明日に向かって」では、現代社会が抱えている課題や、社会におけるきまりやルールなどについて調べたり考えたりする学習活動が設定されており、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができるよう工夫されている。</li> <li>・ 各章の導入部では、イラストを用いて生徒にとって身近な社会的事象について問題提起されており、生徒が章の学習内容について興味・関心を高めるとともに、対話的な活動を通して章や節の問いを立てることができるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元配列は、現代社会、政治、経済、国際社会という配列である。特に、第4編はこれまでの公民学習のみならず、3分野の総括、中学校社会科学学習の総括として、国際社会がもつ課題をテーマにした、3分野横断的な課題解決学習が設定されている。</li> <li>・ 「情報スキルアップ」では、ネット社会と付き合う方法や、新聞の読み方や伝え方などが紹介されており、情報を読み取ったり活用したりする技能を習得できるよう配慮されている。</li> <li>・ 各題材において見開き2ページの左上には「見方・考え方」が、左下にはその「節の問い」が、右下には「確認」「表現」が定位置で示され、インクルーシブ教育の視点でも配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QRコンテンツが系統立てて配置されており、「ポートフォリオ」「イントロダクションムービー」「確認小テスト」などが付されており、生徒が予習や復習などとして学びを調整したり、主体的に学習に取り組んだりする態度の育成に活用できる。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )  
  
地 図

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	社会 (地図)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	2 年	3 年	株式会社 帝国書院	
地 図 046-72 中学校社会科地図				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各州、各地方で地図、地形図、鳥瞰図、主題図が豊富に掲載されており、世界では、各地域を大観できる大鳥瞰図を設置している。また、比較しやすくすることで、地理的な技能の向上を図りやすく工夫されている。</li> <li>・地理的な見方・考え方を働かせる問い「地図で発見！」が全156問作成されており、思考力・判断力・表現力の育成につながるよう配慮されている。また、地図活用の技能（スキル）が身につくような工夫がされている。</li> <li>・各種資料図にSDGsアイコンをつけることで、持続可能な開発目標の観点に基づいた課題を主体的に追究し解決する態度を養えるよう配慮されている。</li> <li>・伝統・文化に関する「伝統工芸品」「地場産業」「世界文化遺産」などの絵記号が多く掲載しており、伝統・文化の継承と発展について考えられるよう配慮されている。また、日本の伝統・文化に関する特設ページが設けられており、日本の伝統・文化への理解が深まるよう配慮されている。</li> <li>・自然災害・防災への意識を高められるように工夫され、地震や火山の分布や、起こりやすい自然災害と対策が記載されている。また、日本の各地方の主題図において「防災」をテーマとする資料が12カ所ほど設置されている。</li> <li>・日本の主題図では、各地方の冒頭に、自然環境、人口、産業、交通の4つの中核となる事象を網羅した「自然（地形）」「降水量」「人口分布」「農業」「工業・交通」の5図を設置している。</li> <li>・日本の領域（領土・領海・領空）について正しく理解出来るよう図で示し、排他的経済水域をわかりやすく捉える工夫や、歴史分野との関連を示す年表などを掲載することで、歴史的背景をふまえつつ、正しく理解出来るよう配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の生活・文化のページでは、衣食住の様子を中心として、人々の生活を視覚的に捉えやすい写真資料が掲載されており、実際の人々の生活をイメージしながら学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>・歴史や公民など他分野でも活用できるよう歴史鳥瞰図として工夫されていて、年表やアイコンで出来事や史跡を掲載している。そのため、修学旅行などの調べ学習にも活用できるようになっている。</li> <li>・それぞれの地図の中に、主な歴史的分野の出来事が紫色のポップで取り上げられており、地歴それぞれの分野を関連付けながら、分野横断的な学習にも活用できるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の諸地域」では、「一般図」「鳥瞰図」「資料図」の配列や配置、「日本の諸地域」では、「一般図」「拡大一般図」「資料図」の配列や配置で掲載されるなど、一貫した構成となっているため、学習者にもわかりやすい構成になっている。</li> <li>・縮尺を同縮尺で示しているため、複数の図を比較・関連させて考察できるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QRコンテンツが全部で971点設置されており、「地図の基礎・基本」「地域見える化GISジオグラフ」など、生徒の自主学習や家庭学習を支援する工夫や、授業においても個別最適な学びを支援する工夫がされている。</li> <li>・UDフォント、カラーユニバーサルデザイン、レイアウトの統一、手話による地域の表現など、特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮がなされている。</li> </ul>			

教科用図書の記号・番号・名称			種目	社会(地図)
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
地図 002-72 新編 新しい社会 地図				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図を比較したり、資料をもとに考えたりする問いに取り組めるよう、地図の活用法や学習を深める「Bee's eye」を設置し、「ヒントとなる問い」を1見開きにつき1問以上提示することで、生徒が、主体的に地図を活用する力が養えるよう工夫されている。</li> <li>・過去の町並みと、現在の町並みを比較するなど、複数の図を比較、検討することで、資料活用能力や思考力・判断力・表現力が高まる工夫がされている。</li> <li>・SDGsなどの現代的な諸課題に関連する資料やSDGsをテーマとした特集ページを掲載し、国際社会が抱える様々な諸課題についての理解を促すことで、持続可能な社会についての課題を主体的に追究し解決する態度を養えるよう配慮されている。</li> <li>・グラフの経年変化や主題図に即した挿絵や写真が掲載されており、より地域の特色が捉えられるよう配慮され、挿絵、写真、図表、グラフ等は、適切に配置されている。</li> <li>・A4版に拡大されたこともあり、世界の一般図は州をできるだけ大きな縮尺で取り上げ、同縮尺の日本などと比較して、地理的な感覚を養ったり、日本の一般図は、縮尺を統一して、地形の特色を的確に捉えたりできるように配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域について取り上げたページでは、それぞれの土地利用や降水量、人口密度などに関する資料に加え、土地の起伏の様子が分かる鳥瞰図が簡潔に掲載されており、土地の様子を正確に捉えられるよう配慮されている。</li> <li>・遺跡や古墳、城跡などの歴史的事柄が多数掲載されていることに加え、河岸段丘や埋め立てなどの地理的な内容も詳細に掲載されており、教科書で扱いきれない詳細な事柄も取り上げることで、分野横断的な発展的学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>・生徒に親しみやすい蜂のキャラクターから、各ページに掲載された地域や国について、さらに思考を促すような学習課題が提示され、補充的な学習にも活用できるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに関するページが設けられ、関連する資料が掲載されているなど、各教科等や総合的な学習の時間などに関連して活用できるよう配慮されている。</li> <li>・歴史や公民の授業で活用できる資料には、それぞれ、「歴」「公」のマークが明示され、社会科の各分野の学習で活用できるページや資料を随所に掲載し、3年間の社会科学学習全体で活用できるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同社発行の「新しい社会 地理」の学習内容と連動するように資料配列がなされている。また、教科書にない補充資料を掲載している。</li> <li>・A4版に拡大され、掲載できる範囲を広げて、広い紙面を生かした資料を掲載する工夫がされている。</li> <li>・デジタル地球儀「My Globe」をはじめ、多くのQRコンテンツを掲載することにより、家庭学習や自主学習の支援をすることや、個別最適な学びを実現する工夫がされている。</li> <li>・ユニバーサルデザインに対応した書体を全体に採用し、特別支援教育・インクルーシブ教育への配慮がされている。</li> <li>・「誰一人残されない学びの実現」のためにデジタル教科書での「Google翻訳」「総ルビ・分かち書き表示」などの配慮がされている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料

( 報 告 書 )

数 学

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	数 学
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
数学 002-72 新編 新しい数学1 ～MATH CONNECT 数学のつながり～	数学 007-82 新編 新しい数学2 ～MATH CONNECT 数学のつながり～	数学 002-92 新編 新しい数学3 ～MATH CONNECT 数学のつながり～		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決に取り組む過程で、生徒に統合的・発展的に考えることを促すため、「同じように考えると」や「それなら」という表示を吹き出しにつけている。</li> <li>・ 「深い学び」のページでは、学習の終わりに、働かせた数学的な見方・考え方の振り返りを行い、未知の問題を解決する際の手順や手立てを生徒が身に付けられるように工夫されている。</li> <li>・ 統計の問題では、統計的探求プロセスの「Pr問題→Pl計画→Dデータ→A分析→C結論」を可視化し、データ活用力を身に付けられるように工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別最適な学習の実現のため、数学が苦手な生徒から得意な生徒まで、自らのペースで学習できる問題構成になっている。</li> <li>・ 必ず身に付けたい問題には「♡」、少し難しい問題には「★」をつけ、個に応じて難易度を調整できるように工夫されている。</li> <li>・ 「章の問題B」では、全国学力・学習状況調査の活用型の問題や入試問題を掲載しており、身に付けた知識・技能を活用したり、自らの考えを表現したりする練習ができるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習得した知識・技能を活用する「深い学びのページ」では、学習過程が可視化されており、生徒が自ら考え、対話を通して考えを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>・ 導入で利用できるデジタルコンテンツがあり、短い動画で生徒の興味・関心をひきながら、単元を見通した学びの方向性を確認できるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QRコンテンツに「証明メーカー」が入っており、生徒が証明の筋道や、根拠となる性質を考えながら証明を組み立てる練習を行うことができるようになっている。</li> <li>・ フラッシュカードや問題解決のヒント、解答解説とその動画など、QRコンテンツが豊富にあり、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	数 学
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	日本文教出版 株式会社	
116-72 中学数学1	116-82 中学数学2	116-92 中学数学3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めあてが明記されていることや、巻末に「ふり返りシート」がついていることで、生徒自身による振り返りが行いやすくなっている。</li> <li>・ 日々の学習を助ける大切な見方・考え方の視点が分かりやすく示されており、生徒の思考を深めたり、課題解決の糸口にできたりする構成になっている。</li> <li>・ 間違えやすい部分で誤答を正す問題で取り上げることで、内容の理解が深まっているか確認できるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本の問題を位置づけることで、基本的な知識・技能の定着を図れるように構成されている。さらに、「章の問題」「とりくんでみよう」があり、生徒の到達度に応じて学習に取り組めるような構成となっている。</li> <li>・ 「とりくんでみよう」の問題には必ず説明問題が含まれている。理由を考えたり、説明したりする力を育成するための工夫がなされている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の始めに「次の章を学ぶ前に」のページを入れることで、その単元に必要な知識を再確認し、既習事項とのつながりを意識できるようになっている。</li> <li>・ 単元ごとの演習問題の量については適切である。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末にふり返りシートと対話シート</li> <li>・ 単元に入る前に、関連のある既習事項の確認ができる。</li> <li>・ 授業ごとにめあてを明示</li> <li>・ 問題解決に使う数学的な見方・考え方の種類を明示</li> <li>・ 単元ごとに、説明を考えさせる問題を取り入れている。</li> <li>・ 「見る」「身につける」「調べる」のQRコードがあり、理解を助け、個別最適な学びを行うことができる。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	数 学
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	学校図書 株式会社	
数学011-72 中学校数学1	数学011-82 中学校数学2	数学011-92 中学校数学3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容ごとに「どんなことがわかったかな」で、学習内容をまとめ、振り返ることができる。また、「次の課題へ！」で次時の学習内容にふれ、見通しをもたせる工夫がなされている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>「計算力を高めよう！」のページでは、40問程度の問題が掲載されているため、家庭学習や計算練習で活用できる。</li> <li>「見方・考え方」として生徒が疑問に考えそうなことについて、考える視点を示唆するコメントを掲載することで、個で考える際のヒントとなっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働的に考えることを目的としている構成になっており、対話を通して課題について考える形式をとっている。考え方にふれることができるものの、文章の量が多い印象がある。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書アドバイザー「マスマス！」で、チャット形式で質問をすることができる。</li> <li>巻末には答えしかないが、QRコードで簡単な解説を見ることができる。途中の計算も掲載されている。</li> </ul>			

			種 目	数 学
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称				発 行 者 名
1年	2年	3年	教育出版 株式会社	
数学017-72 中学数学1	数学017-82 中学数学2	数学017-92 中学数学3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の利用の場面で、学びのプロセスが示されており、生徒自身が主体的・対話的な数学の学び方を意識できるように工夫されている。</li> <li>章末の【学習のまとめ】では、章の基礎的・基本的内容を生徒自らが確認できるようになっている。</li> <li>章末問題の【たしかめよう】では、大問ごとに評価の観点が示されており、生徒が自身の理解度を◎○△で自己評価できるように工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>章の問題を、【たしかめよう（基礎・基本の確認）】と【力をのばそう（公立高校入試過去問）】、【学んだことを活用しよう（活用）】に分けており、生徒の実態に応じて個別最適に学べるように工夫されている。</li> <li>巻末に【学んだことを活用しよう+】や【総合問題】、【補充問題、実力アップ問題】があり、補充的、発展的な学習が行えるようにしている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大切にしたい数学的な見方・考え方」として、「問題解決を進めるときの見方・考え方」と「問題を発展させたり、統合したりするときの見方・考え方」、「問題を明確にしたり、解決の手がかりをつかんだりするときの見方・考え方」が具体例とともに示されている。生徒が見方・考え方を働かせて課題に取り組みるように工夫されている。</li> <li>章の導入では、身近な課題を取り上げ、生徒が主体的に問をもって学習を行えるように工夫されている。</li> <li>側注に「学びのマップ」が示されており、既習事項を振り返りながら学習を進められるようになっている。</li> <li>1年生の学習では、負の数の導入を行う前に累乗を学習し、つまずきやすい内容もスモールステップで理解できるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計ツール「SGRAPA」を使用することができ、生徒一人一人がグラフを作成・編集しながら推測したり、考えたりすることができる。また、あらかじめ入力されている統計データはグラフや表にする範囲や階級の幅などを自由に変えられるようになっており、他の生徒と自分の作成したグラフを比較するなどして、主体的で、対話的な学びを実現できるように工夫されている。</li> <li>「章の問題」の「力をのばそう」「学んだことを活用しよう」では、QRコードから解決の手立てを参照でき、生徒が自主学習に取り組みやすいように工夫されている。</li> <li>デジタルコンテンツが充実しており、授業の導入、展開、まとめのそれぞれの場面に応じて活用できるように工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	数 学
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 新興出版社 啓林館	
数学061-72 未来へひろがる数学1	数学061-82 未来へひろがる数学1	数学061-92 未来へひろがる数学3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての例題を解説する動画があり、生徒が予習や復習に役立てられるように工夫されている。</li> <li>数学的な見方・考え方を「たいせつな考え方」として、様々な考え方の標識を掲載している。標識は「問題発見」と「問題解決」の2つに分類されており、生徒が繰り返し目にして体得できるように工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>補充問題や追加問題が、紙面ではなく、すべてQRコンテンツに入っており、生徒の達成度に応じて活用することができる。</li> <li>すべての単元で、「〇〇の利用」の節が配置されており、学んだことからのよさを実感できるように工夫されている。</li> <li>問題発見・解決の過程を取り入れた「ステップ方式」で、生徒が問題発見・解決の過程を意識できるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>章末問題では、QRコードで【解答】のほか、課題解決のヒントになる【学習したこと】や【考え方】、【動画】等を見ることができる。それぞれ【解答】と別に開くことができ、生徒一人一人が、必要に応じて解決の糸口にできるように工夫されている。</li> <li>QRコードから見ることのできる【解答】では、途中式まで含めた詳しい解答が掲載されており、間違えた問題の振り返りを詳しく行えるようになっている。</li> <li>各章の学習前に、既習事項の振り返りに活用できる「ふりかえりCBT」があり、タブレット端末上でレディネステストを行うことができる。</li> <li>例題にはタイトルをつけ、学習内容を明確につかめるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコンテンツの内容が充実している。コンテンツの内容を示す6種類のマークと説明がQRコードの下についており、授業でも、家庭学習でも活用しやすいように、工夫されている。</li> <li>補充問題や、解答を紙面ではなく、QRコードに移行し、教科書のページ数と重さを削減している。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	数 学
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	数研出版 株式会社	
104-73 これからの 数学1	104-83 これからの 数学2	104-93 これからの 数学3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ぐんぐんのばそうチャレンジ編」では、特に難易度が高い問題にマークを付け、生徒の到達度に応じて練習問題に取り組めるようになっている。</li> <li>・ 教科書とデジタルが一体となった構成となっている。特に、図形や関数の単元では視覚的理解を促進するコンテンツを生徒自身が動かしながら自主的に学習を行えるように工夫されている。</li> <li>・ 全国学力・学習状況調査のリンクがあり、関連問題にすぐに取り組めるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲載されている問題数は少ないが、QRコンテンツの補充問題が充実している。また、練習問題が設定されており、必要に応じて繰り返し練習ができるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各章の前に、「ふりかえり」ページがあり、その章を学ぶ前に確認しておきたい既習内容を振り返ることができる。</li> <li>・ 因数分解では、公式ごとに問題が配列されているため、先頭に係数がついている問題にも、生徒が苦手意識をもつことなく取り組めるようになっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「補充」「資料」「イメージ」「考察」「探究」のほか、入試問題など、QRコンテンツの内容が充実している。</li> <li>・ 巻末に「学びの自己評価」があり、評価のポイントが分かるようになっている。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	数 学
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	大日本図書株式会社	
数学702 数学の世界1	数学802 数学の世界2	数学902 数学の世界3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての章に、活用の問題が含まれており、毎回問題解決の流れを4つのステップで示すことで、生徒が問題解決に向けた取り組み方を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>「プラス・ワン」、「力をのぼそう」、「活用・探究」、「補充問題」「総合問題」を設け、生徒1人ひとりが目標に応じて学習に取り組みやすくなっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が間違えやすい問題では、誤答について説明する問題が掲載されており、生徒が思考力・判断力・表現力を働かせられるように工夫されている。</li> <li>「学びにプラス」では、生徒が、数学のよさを実感し、学習を振り返りながら学習したことを広げたり活用したりできるように、身のまわりの内容について関連問題を掲載している。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭で、「問題発見・問題解決の流れ」の説明、「数学的な見方・考え方」とその働かせ方の例が掲載されており、生徒が問題解決の際に参照できるように工夫されている。</li> <li>前年の学年の学習との接続に配慮し、既習事項をいつでも確認できるように巻末にまとめのページを設けている。</li> <li>導入課題をもとに学習のめあてを設定する流れになっており、見通しをもって学習に取り組むことができるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査で導入されていた、CBT形式の問題がデジタルコンテンツに含まれている。音声や映像から得た情報をもとに、問題解決に向けて思考力を働かせられるように工夫されている。</li> <li>統計ツール「SGRAPA」を利用できる。データが入力されていないコンテンツもあり、調べたいデータを生徒が自ら入力して分析できるように工夫されている。</li> <li>ユニバーサルデザインフォントを使用しており、誰にでも読みやすいように配慮されている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )  
  
理 科

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種目	理科
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 新興出版社啓林館	
理科061-72 未来へひろがるサイエンス1	理科061-82 未来へひろがるサイエンス2	理科061-92 未来へひろがるサイエンス3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章導入や本文中で、必要に応じて小学校や中学校の前学年で学習した既習事項を振り返る内容があり、スムーズに学習に入れる工夫がされている。生徒が理解しにくい内容（計算問題）や誤解しやすい内容（補足）に「例題・練習」, 「なるほど」のコーナーが設置され、基本的な知識の定着が図れるよう工夫されている。さらに、章末の「Review ふり返ろう」で基本的な用語や概念の理解を深めたり、「力試し」において、それらを活用する力を身に付けたりすることができるよう配慮されている。</li> <li>・単元を通して「課題の把握」「課題の追求」「課題の解決」という探究的な学習過程が重視されており、「探究の心構え」や「実験データの大切さ」などを示し、「研究倫理の基本」を身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>・単元導入に新設された「学ぶ前にトライ!」で、単元を貫く本質的な問いが設定されており、生徒が何のために学ぶのか意識できる。更に、単元末の「学んだ後にリトライ!」では、単元導入の問いを再考することで、自身の成長や学びの深まりが実感できるような構成となっており、生徒が自ら学習に取り組んでいこうとする態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>・単元導入や章などで、生徒の興味・関心を高めるビジュアルな写真・資料が示され、主体的に問題を見いだせるような構成となっている。</li> <li>・単元の中で「実験」と「探Q実験」が分かれており、理科の見方・考え方を働かせたキャラクターの対話例が示されており、対話が豊かになるよう配慮されている。問題を見いだす場面や実験計画を立てる場面、考察の場面での対話例を通して、探究の過程において着眼させたいポイントを示すなど、話し合い活動の充実につながるよう工夫されている。</li> <li>・だれもが無理なく探究できるように、探Q実験での探究をサポートする「探Qシート」や「探Qラボ」が用意されていて「実験中の注意点」や「探究の流れ」がわかりやすくまとめられている。</li> <li>・話し合いやグループ活動などの協働学習の場面が随所に設定され、「探Q実験」の「発表してみよう」では言語活動を充実させるために「スライド発表」や「ポスター発表」のテンプレートが用意されている。</li> <li>・単元末の「みんなで探Qクラブ」では、身に付けた探究の力を自由研究やパフォーマンス課題などとして活用し、科学的に探究する活動を通して、深い学びにつながるよう工夫されている。</li> <li>・節（学習の区切り）ごとに「Action活用してみよう」があり、学習課題を解決したことで得た知識・技能を活用することができる発問が用意されている。答えられない生徒のためにQRコードからヒントを見ることができる工夫がされている。</li> </ul>			

<p>2 程度・選択・ 取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用して「はてなスイッチ」「動画でチャレンジ」「観察・実験に役立つ動画」など様々な動画が視聴でき、生徒の興味・関心や学習意欲が向上するように配慮されている。</li> <li>・文字サイズが学年によって設定されており、生徒が小学校教科書から中学校教科書にスムーズに移行できるように配慮されている。</li> <li>・二次元コードを読み取ると、フラッシュカードによる繰り返し学習が可能である。</li> <li>・観察・実験の「安全マーク」により、文字とアイコンを組み合わせて注意すべき内容が確実に伝わるように配慮されている。</li> </ul>
<p>3 組織・配列・ 分量について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決的な学習を行うことを考えたゆとりのある時数配分となっている。また、地域の気候特性や各学校の履修形態に合わせて、単元順序の入れ替えが行えるよう工夫されている。</li> <li>・「お仕事ラボ」「お料理ラボ」「防災減災ラボ」で地域と連携した活動につながるよう工夫されている。</li> <li>・「算数・数学との関連」「家庭科と関連」などで他教科との関連が示されている。</li> <li>・「発展」として高校の学習内容が示されており、学習の系統性が意識できるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>4 本書の特徴点 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイズがワイド化されたことで写真と図が豊富に掲載され、それらが大きくダイナミックにレイアウトされている。生徒の探求心や興味・関心が高まることにつながる。</li> <li>・本文の幅が一定で、途中で図や写真を挟まないレイアウトになって、図や写真を紙面上部に集められており、生徒が視覚的に認知しやすく、落ち着いて本文を読み進められるよう配慮されている。</li> <li>・本文や見出しなどの文字にユニバーサルデザインフォントが採用され、メディア・ユニバーサル・デザインの観点から、色覚の個人差を問わず、全ての生徒が支障なく学習を進められるように配色・デザインが配慮されている。</li> <li>・SDGsに関する内容が豊富に取り入れられていて、理科と「社会とのつながり」や「科学技術の有用性」などを意識できるように工夫されている。</li> </ul>

			種 目	理 科
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
理科 002-72 新編 新しい科学 1	理科 002-82 新編 新しい科学 2	理科 002-92 新編 新しい科学 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の下部に「探求」の流れである、「問題発見」「?(課題)」「仮説」「構想」「観察・実験」「分析解釈」「!(課題に対する結論)」「分析解釈(ふり返り・活用)」が対応するように示されており、自分が今は「探求」のどの段階にいるのかがわかる。</li> <li>・実験のページでは、実物の写真が載っており、イメージしやすい。また、「考察のポイント」があり、生徒が考察する意欲が上がりそうな構成になっている。</li> <li>・繰り返し学習が必要な内容では、「例題」があり、「練習問題」のQRコードもある。</li> <li>・実物の写真や図が多く、視覚的に理解しやすい。</li> <li>・読み物資料が多く、理科への興味が高まりそうな構成になっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元扉や章扉に、これから学習する内容に関連した「スタート動画」があり、学習の動機づけを促している。</li> <li>・節の初めには「レッツ スタート!」があり、学習意欲を高めようとしている。</li> <li>・章の最後には「学んだことをチェックしよう」があり、それぞれの節でのポイントを振り返れるようになっている。</li> <li>・単元の最後に、「学習内容の整理」があり、用語などの基本的内容がまとまっていて、振り返りがしやすい。</li> <li>・単元の最後に「確かめ問題」「活用問題」があり、単元の復習(基礎・応用)ができる。</li> <li>・実験のページで、安全に関することは赤文字で書かれており、目につきやすい。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習前に書こう」「学習後も書こう」があり、自分の変容がわかる。</li> <li>・「これまでに学んだこと」と「発展」があり、学びのつながりがわかる。</li> <li>・他教科等での学習内容と関連のあるところには「〇〇科で学ぶこと」と示してあり、学習がつながるようになっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QRコンテンツが豊富</li> <li>・全国学力・学習状況調査に対応している。</li> </ul>			

			種 目	理 科
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育出版 株式会社	
理科 017-72 自然の探究 中学理科 1	理科 017-82 自然の探究 中学理科 2	理科 017-92 自然の探究 中学理科 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の「疑問をみつける」では、生活体験や自然の事象などから疑問を見いだす場面が表現されており、生徒が疑問を身近に考えやすくなっている。</li> <li>科学の読み物「ハローサイエンス」の頻度が高く、ここでは日常生活や社会生活と関連の深い科学技術の成果などを紹介している。これらを通して既習内容がどのようなところで役立つのか理解しやすくなっている。</li> <li>各場面に適宜「話し合おう」が設定されており、生徒一人一人が自分の考えをもとに、話し合いをすることができるように配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験において「目的」「準備」「方法」「結果」「考察」と細かく示されており、生徒が観察、実験に主体的に取り組めるようになっている。</li> <li>事故防止のため、観察、実験の項目では禁止や注意のマークを使用して視覚的にも目立つように配慮されている、</li> <li>各単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」を配置し、それぞれの単元で、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるように配慮されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の節ごとに、「課題」「仮説」「計画」「観察・実験」「考察」「結論」の順で展開するように構成されており、生徒が見通しをもって学習を進められるように配慮されている。</li> <li>学習を進めるために活用したい既習内容を「これまでの学習」で示すことで、生徒が系統的に学習を進められるようになっている。</li> <li>季節や季候の影響を受けやすい観察や実験の時期に配慮された単元の配列になっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>他社の教科書よりも文字サイズが大きい。学年が進むにつれて少しずつ小さくなっていくが、それでも大きく感じる。そのため、文字を読むのが苦手な生徒にも教科書が読みやすいつくりになっている。</li> <li>重要語句が赤色になっていて判別しやすい。また、初出の語句には全てふりがながついている。</li> <li>見開き表示などに大きなイラストや写真が豊富に掲載されている。</li> </ul>			

			種目	理科
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	大日本図書株式会社	
理科 702 理科の世界 1	理科 802 理科の世界 2	理科 902 理科の世界 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Science Press」や「科学のあしあと」。「くらしの中の理科」など、科学的知見や科学の歴史、科学と日常生活や社会との関連を紹介した豊富な資料をもとに、幅広い知識と教養を身に付けられるように工夫している。</li> <li>・観察・実験には、「目的」「着目点」「結果の整理」「結果から考えよう」を明記し、生徒が見通しをもって観察・実験を進められるようにしている。</li> <li>・「私のレポート」「観察・実験ノートの書き方」「レポートの書き方」などを掲載誌、表現力を育成できるようにしている。また、「話し合おう」などの話し合い活動で、コミュニケーション能力が身に付くようにしている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習ができるように、「例題」「演習」「章末課題」「単元末問題」の解答を巻末に掲載して、自習学習ができるようにしている。</li> <li>・それぞれの探究の家庭の中で、「比較する」「関係づける」「条件を制御する」「多面的に考える」などの見方・考え方を働かせながら、学習を進められるようにしている。</li> <li>・観察・実験の結果は、課題文とは別の見開きページに「結果の例」として掲載し、観察・実験を終えた後で、自分の結果と比較し振り返ることができるようにしている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の配列は、小学校との接続を重視し、1分野と2分野を区別することなく、観察・実験のしやすい時期、学年によって理科室の使用が重ならないこと、発達段階などに配慮して、3年間の中学校の理科の学習が無理なく円滑に進むようにしている。</li> <li>・同じ学年で関連する内容を学習するところには、「リンクマーク」をつけて該当ページを示すことで、既習事項を振り返ったり今後の内容に見通しがもてたりできるように配慮している。</li> <li>・発展的な学習内容は、学習指導要領に示されていない内容であることや、すべての生徒が一律に学習する必要がないことを巻頭に明記し、掲載ページにおいても、本文と明確に区別できるデザインにしている。</li> <li>・学習する学年を併記することで、上位学年の学習内容との円滑な接続を図れるようにしている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習する漢字以外を用いるときは、原則として見開きページの初出の漢字にふりがなをつけている。</li> <li>・図はリアルタッチや線画など、場面に応じて効果的に使い分けている。特に、観察・実験の場面では、内容をより理解することができるよう、わかりやすい図解や鮮明な写真を用いている。</li> <li>・観察・実験や「やってみよう」を設け、興味・関心や理解の程度に応じて取り組むことで、個々の生徒の学力がより深まるようにしている。</li> </ul>			

令和7年度使用（中学校）教科用図書調査研究報告書

			種目	理科
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	学校図書 株式会社	
理科 011-72 中学校 科学1	理科 011-82 中学校 科学2	理科 011-92 中学校 科学3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験のページが多く確保されていて、「探求」の流れが丁寧に説明されている。また、「気づき」によって実験への意欲が高まる。</li> <li>・実験以外のページ以外は、要点がとてもコンパクトにまとまっている。</li> <li>・実験の説明の次ページに「結果」と「考察」がまとまっており、考察を書くのが苦手な生徒は書き方の参考にできる。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の最初に「Can - Do List」があり、どのようなことができるようになればよいかを知り、見通しを持つことができる。</li> <li>・単元の最後には、「学習のまとめ」があり、その中の「用語を覚える」では基本的な用語がまとまっている。また、「基本問題に慣れる」では、基本問題を解くことができる。</li> <li>・巻末には「計算問題の例題」や「読解力強化問題」・「思考をさらに深める(高校入試問題の解説付き)」が収められている。</li> <li>・実験のページでは、黄色い枠に赤文字で注意事項が書かれているので、注意を引くことができる。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の上部に「この時間の課題」があり、見通しが持てる。また、教科書の下部に「この時間の見方」「考え方」があり、課題を解決するときの参考になる。</li> <li>・各単元の最初には、「ふり返ろう・つなげよう」があり、過去に学習した関連のある内容が書かれている。</li> <li>・章のとびらには、SDGsとの関連の一例のマークが示されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なことを端的に学習する構成になっており、予備時数を多く確保できる。探求や定着に時間をかけることも可能。</li> <li>・ほぼ全ページにQRコードが載っており、ウェブページにつながっている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

音 楽 ( 一 般 )

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	音楽 (一般)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 教育芸術社	
音楽 027-72 中学生の音楽 1	音楽 027-83 中学生の音楽 2・3上	音楽 027-84 中学生の音楽 2・3下		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的な見方・考え方を働かせる際の大切な視点となる「音楽を形づくっている要素」が学習内容の一覧や、各教材に記載されている。また「学びのコンパス」ではどの音楽を形づくっている要素に着目して考えればよいか示されており、生徒の学びを深めやすい。</li> <li>・題材を通して、知覚・感受したことを、どう表現に生かすかを思考させるという流れで表などのワークシートが作成されている。</li> <li>・各題材の目標がカラーで分かりやすく提示されており、生徒が目標を意識して学習ができるように工夫されている。また、学習していく中でさらに深めたい内容が疑問形式で示されており、課題意識を持たせて取り組ませやすい。</li> <li>・歌唱教材においてパート別の音源やカラピアノの音源などがQRコードで取得でき、様々な学習形態や学習環境に合わせた使用や生徒の自律的な学習に役立てられる。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住む地域の文化や伝統音楽、伝統芸能について、写真や資料が充実しており、生徒がそれらを身近に感じながら我が国や郷土の音楽文化を愛好する心情や、尊重する態度を養えるよう配慮されている。</li> <li>・題材の難易度や、付属しているワークシート部分の量は発達段階に応じた難易度や分量となっている。</li> <li>・鑑賞の楽曲については掲載されている楽曲が多岐にわたっており、実情や学習させたい形態に合わせて選択できる。また、音楽と生活や社会との関わりを意識しながら、徐々に視野や価値観を広げられるよう工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での学習内容と関連付けられた題材の配列となるよう工夫されている。またリズム学習や、旋律の創作など、年次があがるごとに関連した内容がさらに発展した形で内容が掲載されている。</li> <li>・題材の配列がだんだんと発展していくよう設置されている。また歌唱から創作などに進むなど、前時で学習した内容が生かせるよう工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や資料は色彩が鮮やかで発色が良く、生徒の視覚的な関心を費いやすいように工夫がなされている。またフローチャートのような手順を図式化した内容や、文字情報の配置も見やすく、生徒の特性の多様性の観点から、インクルーシブ教育への配慮がされている。リやすくなっている一方で、細かい用語や内容の解説も文章で掲載されているためさらなる内容の理解につながる。</li> <li>・発声の仕方や、楽曲の構造、鑑賞曲の解説など資料の多くが分かりやすく図式で描かれている。一方で、資料は複雑すぎず、配置や構成が見た目にもわかりやすい。</li> </ul>			

			種目	音楽（一般）
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 教育出版	
音楽 017-72 中学音楽 1 音楽のおくりもの	音楽 017-83 中学音楽 2・3上 音楽のおくりもの	音楽 017-84 中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱のページでは、楽曲のページの次に、楽曲について深掘りするページ「active」が掲載されており、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて学習できるよう工夫されている。</li> <li>・鑑賞の楽曲などでは、歴史や年代の比較がしやすいように年表が付属している。また、類似や関連した楽曲同士の比較がしやすいように誘導するヒントが掲載されている。鑑賞の楽曲などでは、歴史や年代の比較がしやすいように年表が付属されている。</li> <li>・生徒が音楽的な見方・考え方を働かせて学習できるよう、「音楽を形づくっている要素」「学習の進め方」「どんな特徴があるかな」のページに整理して示されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作については、「音のスケッチ」として段階的に継続的に扱われており、発達段階に合わせた活用ができる。また単純な旋律やリズム創作に限らず、言葉を用いた創作や、CMソング作りなど、生徒が親しみやすい内容になっている。</li> <li>・歌唱の楽曲については、歌詞の内容や曲想など、生徒に親しみやすいものが多く、発達段階にも合っている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習 MAP」では題材ごとに学習内容がどのように推移していくか、歌唱・鑑賞・創作など分野をまたいで楽曲の内容がどんな部分で関連するのかが図式されていて、学習した内容が系統立てて確認できる。</li> <li>・生徒の実態に応じて、無理なく学習が進められるよう、基礎・基本を確実に身につけられる部分と、選択して学習できる部分の工夫がされている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの楽曲で深めたい内容が要点化されていて扱いやすい。また記述する部分なども限定的で無理なく進められると思われる。</li> <li>・楽曲の楽譜が掲載されているページは文字情報が少なく、かつ楽譜が大きめに掲載されているため、楽譜が見やすく書き込みもしやすい。</li> <li>・アイコンやマーク等で楽手の見通しや、活動例などが分かりやすく示され、生徒の主体的な学習活動が引き出されるよう工夫されている。</li> <li>・</li> </ul>			

取扱注意

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

**音 楽 (器楽合奏)**

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	音楽 (器楽)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 教育芸術社	
音楽 027-72 中学生の器楽				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の中で考えさせたいポイントが明示されており、音楽活動を通して無理なく音楽を形づくっている要素をとらえたり、それらを生かして器楽や創作の活動を進めたりできようになっている。</li> <li>・掲載されている写真や資料には音楽文化に関わる内容が掲載されており、音楽文化と豊かに関わるための工夫がなされている。</li> <li>・楽器の奏法などについては文章だけでなくイラストや写真などでも掲載されているなど、生徒が基礎的な技能を習得しやすいよう工夫されている。またQRコードなどのデジタルコンテンツも充実している。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載されている楽曲は民謡やクラシックだけではなくポップスや映画音楽などもあり、生徒の心情に合ったものが、様々な習熟度に応じた編曲でとりあげられている。</li> <li>・学習できる内容が、リコーダー、和楽器、ギターなどの定番のものから、巻末には様々な打楽器の奏法やボディパーカッションの楽曲なども掲載されており、様々な音楽活動に生かせる内容が盛り込まれている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領の学習内容との系統性が保たれており、義務教育9年間を通して音楽科の目標に迫る内容となっている。また筆の学習では、演奏から発展した創作の活動が設定されており、発展的な内容も学べる。</li> <li>・学習内容をまとめた「学びの地図」では器楽の学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。また「学びのコンパス」「Q&amp;A」や各所のコラムでは、小学校で身につけたことや、紀州の内容を確認し、繰り返し学習できるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の奏法などについては文章だけでなくイラストや写真などでも掲載されているなど、生徒が基礎的な技能を習得しやすいよう工夫されている。またデジタルコンテンツも充実している。</li> <li>・教科書全体がユニバーサルデザインフォントを多用しており、タイトルと文章だけでなく楽譜中の歌詞なども可読性、可視性が高い。楽譜のページに関しては文字情報が少なくなるよう配慮されているため、音符が見やすく書き込みなどもしやすい。</li> </ul>			

			種目	音楽（器楽）
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 教育出版	
音楽 017-72 中学器楽 音楽のおくりもの				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページごとに活動のポイントや身につける内容が明確になっており、生徒が主体的に、協働的に学習に取り組める工夫がされている。</li> <li>・掲載されている楽曲のジャンルが幅広く、アンサンブルの楽曲も充実しており、多様な楽器の組み合わせのアンサンブルなどの発展的な活動ができるようになっている。</li> <li>・管楽器、弦楽器、打楽器のまとまりで我が国や諸外国の音楽文化を意図して教材を提示し、主体的・対話的で深い学びを導き出すよう工夫がされている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国や郷土の伝統音楽を基盤にして、音や音楽と生活や社会との関わりや、音楽の特徴や多様性を取り扱う工夫がなされている。また各楽器の名手からのメッセージが掲載されているなど、生徒の興味関心を引く工夫がなされている。</li> <li>・「演奏の仕方を身につけよう」では、生徒の実態に合わせて基本的な演奏法を身に着け、表現の工夫ができるよう配慮されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書が進むにつれ、新たな技術が段階的に身につくよう内容が設定されている。例えば「左手」「サミング」など身につける内容に合わせて楽曲の学習順が設定され基礎からまとめに向かうようになっている。</li> <li>・教材が系統性に基づいて配置されており、発達段階に応じた無理のないステップと学力の定着が配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和楽器やギターなどの楽器では、文字情報よりも写真での掲載が多く、生徒が見てわかりやすいようになっている。</li> <li>・「まなびリンク」のピクトグラムが示され、学習に応じた動画等の資料がWEB上に用意されており、生徒の個別最適な学習に合わせた配慮がされている。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

美 術

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	美 術
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	開隆堂出版 株式会社	
美術 009-72 美術 1	美術 009-82 美術 2・3	美術 009-82 美術 2・3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の全題材及び特設のページを通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学ぶことができるように構成されている。</li> <li>各題材の学習の目標に、「知識及び技能に関する目標」「思考力、判断力、表現力等に関する目標」「学びに向かう力、人間性等に関する目標」が明示されており、育成する観点が何なのかが明示されている。</li> <li>生徒同士が議論や検討などの対話を通して、新たな気づきとともに、発想・構想を広げ、鑑賞を深めたりすることができるような学習方法が題材に応じて提示されている。</li> <li>各学年の巻末に、学びの資料というページが設けてあり、学習を深めたい生徒や、学びの再確認をしたい生徒がすぐに参照することができるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術1の巻頭に「図画工作から美術へ」の特設ページがあり、これから始まる美術の学習全体の構成を俯瞰し見通しをもって視覚的に捉えることができるように構成されている。</li> <li>中学生の発達段階を考慮して、簡潔で的確な文章表現に留意し、学習の目的や考えなどが、読み取りやすいように工夫されている。</li> <li>多種多様な題材や資料が掲載されており、他教科やSDGsとの関連についてもわかりやすく表記されている。</li> <li>美術を身近に感じられる作品が数多く掲載されており、生徒が興味関心をもちながら、作品を鑑賞することができるように設定されている。</li> <li>1年生の図画工作から美術への繋がりを大切にした導入ページでは、鹿沼市に作品がある岡本太郎の言葉を取り上げているため、自分たちの地域にある美術を身近に感じることができるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校学指導要領に示された「造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成に基づき「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に応じた各題材の学習目標がわかりやすく具体的に設定されている。</li> <li>一冊ごとに生徒の学習の展開に沿った構成になっており、3年間を通して、各領域・各題材のつながりを意識して学習を展開することができるように設定されている。</li> <li>1年生で一冊、2、3年生で一冊の2冊構成になっている。そのことにより、効率的に学習が進められるように配慮されている。</li> <li>それぞれの分野がバランス良く配置されており、各学年の発達段階に応じた配慮もされている。</li> <li>他教科との関連も位置づけながら、学びの広がりや深まりが感じられるよう工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材のねらいや内容がわかりやすい紙面構成になっている。各学年の巻末に知識や技能を培う資料や、美術館の楽しみ方などの資料を多彩に紹介する充実した学びの資料が設けられている。</li> <li>多くの生徒作品を掲載するとともに、「作者のことば」も提示し、さまざまな個性があることを学べるように工夫されている。</li> <li>題材にはQRコードが掲載され、インターネットを通して、多様なコンテンツを利用することができるようになっている。教科書に掲載された作品以外の参考作品例を見ることができたり、発想・構想や鑑賞の振り返りなどに使えるワークシートも利用できるようになっている。</li> <li>学習をサポートする親しみやすいキャラクターを登場させ、各段階におけるアドバイスや、深い学びへと導く発問、発想や構想を広げる発言などが的確に短い文章で提示されている。</li> <li>本文はユニバーサルデザインフォントが採用されており、中学校以降で習う漢字や「美術の専門用語」については、ふりがなを付けた総ルビになっており、文章の意味が捉えやすくなるように配慮されている。</li> </ul>			

			種 目	美 術
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	日本文教出版 株式会社	
美術 116-72 美術 1 美術との出会い	美術 116-83 美術 2・3上 学びの実感と深まり	美術 116-84 美術 2・3下 学びの探究と未来		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材ごとに学びの目標を示し、学習活動の見通しを立て、主体的に主題を生み出すことができるように工夫されている。</li> <li>・多くの参考作品が掲載されており、「造形的な視点」や「作者の言葉」から、言語活動の充実につなげることができる内容となっている。さらに巻末資料「学びを支える資料」で、基礎的な知識や技法を紹介するなどの工夫がされている。</li> <li>・「表現のヒント」や「鑑賞のポイント」により、表現と鑑賞の発想を引き出し、構想を深める手掛かりとなっている。また、生徒の作業の様子やアイデアスケッチの例などを掲載している。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分冊の構成になっており、学年を追うごとに発達段階を考慮して、より充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> <li>・育成すべき資質・能力の三つの柱に基づく「学びの目標」を生徒向けの言葉で設定し明示してある。</li> <li>・版画の取り扱いを見てみると、美術1の「刷って楽しむ版画の世界」で版画の種類や技法を紹介している。美術2・3上で扱われている浮世絵版画は、表紙や題材の中でも作品掲載数が多く、巧みな技法も紹介されていて興味深い。</li> <li>・木工の町「鹿沼」という視点から、美術1の「暮らしの中の木の工芸」2・3上の「つくる・使う・材料を味わう工芸」で木の制作について取り上げている。</li> <li>・2・3上の「学びを支える資料」では、岡本太郎の作品を取り上げているため、鹿沼市にある作品と関連させることができる。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵や彫刻」「デザインや工芸」の二つの内容を分類し、鑑賞教材を適度に組み込む配慮がされている。</li> <li>・「美術1」では、図画工作からの繋がりや3年間を見通せる導入のページから始まる。美術との出会いから、学びの実感と広がり、学びの探求と未来というテーマで系統的に「美術2・3上下」に発展していく構成になっている。</li> <li>・各学年で育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいて学習できるよう、題材が意図的に関連づけて構成され、発達段階に応じた指導ができるようになっている。</li> <li>・2・3下「あの日を忘れない」では、自然災害や戦争をテーマにした作品を通し、平和や人権の意識を高め、美術の力で社会問題について考えを深める題材を紹介している。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の教科書にある見開きの作品は、迫力があり、原寸大の作品を多く掲載している。そのため、実際の作品を感じた鑑賞ができる工夫がある。美術1「屏風、美のしかけ」では屏風のように折り立てて鑑賞できる図版があり、より実物の作品鑑賞に近い体験ができるような工夫がされている。</li> <li>・表紙は色鮮やかでインパクトのある作品が掲載されおり、見開きで一つの作品を取り上げており大きくて見やすい。</li> <li>・表現や鑑賞の題材として、日本の伝統・美術文化に関する内容を幅広く取り上げ、理解が深められるよう工夫されている。</li> <li>・各題材ごとに「学びのはじめに」というQRコンテンツが用意されているため、授業の導入がしやすいように工夫されている。</li> </ul>			

			種 目	美 術
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1 年	1 年	2・3年		光村図書出版 株式会社
美術 038-72 美術 1	美術 038-73 美術 1 資料	美術 038-82 美術 2・3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1つの題材の中で表現と鑑賞を一体的に学べるよう構成されている。題材のはじめに位置づけられた鑑賞のマークには、対話が生まれるような問いが示されている。</li> <li>・ 表現中心の題材には、実際の制作現場を想起させる生徒の写真やアイデアスケッチ等を掲載し、どのように発想を広げ、構想を練っていけばいいのかが具体的に示されている。</li> <li>・ 生徒の活動の様子やそこに付随する吹き出しコメントも効果的に使われ、制作を身近に感じることができる。</li> <li>・ 風神雷神を取り扱った鑑賞では、関連性の高い作品を1つの題材で扱い、比較して鑑賞することで、作品の理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・ 別冊の資料では、技法、材料や用具、形と色彩など、学習を支える資料が多数掲載され、授業の中で活用しやすいよう工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体を通して、写真に写る生徒や登場するキャラクター等に、性別による偏りが見られない。性別や国籍による偏りもなく、多様性を尊重しながら学ぶことができるよう配慮されている。</li> <li>・ 版画の取り扱いを見てみると、美術1では、「版の表現を味わう」で版画作品を取り上げ、別冊の資料では、多様な版画表現が掲載されている。美術2・3では日本の美術鑑賞教材として紙の質感を変え、北斎の作品が掲載されている。</li> <li>・ 木工の町鹿沼の観点から、美術1「木と親しむ暮らし」で木工芸品を扱い、別冊の資料の「木でつくる」で木工の道具の使い方を紹介している。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2・3年を1冊にまとめ、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるよう配慮されている。また、別冊の資料は3年間の授業で活用しやすいように工夫されている。</li> <li>・ 1年では、美術の見方や感じ方について題材を通して学び、2・3年では、身につけた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関係に視野を広げるなど、内容の系統性や学年の発達段階に配慮した構成になっている。</li> <li>・ 題材の内容に応じて「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と領域を明記し、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」という分野ごとに構成されており、生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮されているが、やや鑑賞の分量に偏りが見られる。</li> <li>・ 鑑賞を中心に、対話を通して作品を比較したり、美術文化について知識・理解を深めたりするなど、多彩な切り口の鑑賞活動が示されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材に関する技法の動画や掲載作品の音声ガイドなどのウェブコンテンツが用意され、該当するページに「全国の生徒作品を見てみよう」というQRコードが示されており、生徒の表現活動や鑑賞活動を支援できるよう工夫されている。</li> <li>・ カリキュラムマネジメントを意識し、道徳科や他教科とのつながりのマークで関連する内容が掲載され、生徒の学びの広がりを支援する工夫がされている。</li> <li>・ 「最後の晚餐」を鑑賞する題材では、さまざまなコンテンツを見て実感的に理解することができるよう工夫されている。</li> <li>・ 本物に近い風合いで作品を鑑賞できるよう、図版の見せ方や紙質に工夫が凝らされている。「日本の絵画を楽しむ」では、和紙を採用することで本物に近い質感のこだわりが見られる。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

保 健 体 育

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	保 健 体 育
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
保体 002-72 新編 新しい保健体育				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領に示された目標に則り、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心や体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成ができるように、各単元が「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4ステップで構成されている。</li> <li>・全学年に単元が設定されている。</li> <li>・自他の健康に関心をもち、それらが現在だけでなく生涯を通じて健康にどのように影響するのか、資料を基に科学的に考えられるように配慮されている。</li> <li>・思春期の成熟について、読み物や資料など発展資料などで詳しく解説されている。</li> <li>・ストレスの対処方法の具体的な方法や技能が紹介されており、室内で行えるリラクゼーションの実習も動画つきで取り上げられている。</li> <li>・危険を予測し回避する力が身につくような課題が設定されている。</li> <li>・応急手当など実習の手順が分かりやすく示されている。</li> <li>・心身の健康に対する環境の影響について理解できるように本文や資料が精選されている。</li> <li>・熱中症に対する対策について気象情報の読み取りなど、生徒自身が必要な情報を取得することで、自身の健康を守れるような課題が設定されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の「活用する」で取り上げている内容は、生徒の生活経験から考えたり、記入したりできる内容であり、生徒の興味・関心を喚起するよう工夫されている。また、それらを活用して行う話し合いや発表などの活動を通して、思考力や判断力、または実践力を養うことができる。</li> <li>・各単元の「広げる」には、学習したことを自他の生活に当てはめて考える活動が設けており、さらなる学びへの意欲を喚起するように工夫されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成配列は、第1学年から第3学年の順に配置され、学年ごとに保健編、体育編で構成されており、生徒が発達段階に応じた内容を学習できるよう構成されている。</li> <li>・主に見開き2ページで1単位時間となっていて、学習内容の広がりや期待できる部分については解説や補足資料が準備されており、より学習を深められるよう工夫されている。</li> <li>・学習内容を理解した上で、各実習ができるように配列が工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や資料が豊富に掲載されており、さらに章末において詳細な解説が書かれているため、生徒の理解の深まりや興味・関心の高まりが期待できる。</li> <li>・SDGsと「感染症」「スポーツ」の関連や、テクノロジーを活用した健康管理・トレーニング等、保健体育で学習する健康、安全、スポーツに関わる最先端技術に触れる資料が扱われており、生徒の興味を高める工夫がされている。</li> <li>・二次元コードを読み取ると、「動画資料」により実写やアニメーションなどの動画を見て学習内容を深めることができたり、「シミュレーション」を用いて疑似体験や個々にカロリー計算を行ったり、主体的に学習できるコンテンツが揃っている。また、その資料を活用した学習展開が期待できる。写真や動画を活動した授業展開から、視覚的にも聴覚的にも考慮されたユニバーサルデザイン化された授業に効果があると考えられる。</li> <li>・全ての生徒が学びやすい紙面で構成され、特別支援教育への配慮、個人差や人権、多様性・共生への配慮、教育のICT化への配慮がされている。</li> </ul>			

			種 目	保 健 体 育
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 大修館書店	
保体 050-72 最新 中学校保健体育				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領に示された目標に則り、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心や体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成ができるように、「課題をつかむ」「今日の学習」「学習のまとめ」のシンプルな3ステップで構成されている。</li> <li>・全学年に単元が設定されている。</li> <li>・自身の健康に関心をもち、現在の生活を振り返り、健康を保持増進していくために必要な資質・能力を育成できるように配慮されている。</li> <li>・思春期の成熟について、コラムや豊富に掲載されていたり、Q&amp;A形式の「健康相談コーナー」を設けたりして、思春期の性に関する身近な疑問を取り上げ、正しい理解をうながすとともに、中学生の不安や心配の解消をはかるように工夫してある。</li> <li>・リラクゼーションの方法の実習時間が確保できる学習内容になっており、場所や状況に合わせて様々な方法を身につけることができる。</li> <li>・けがの防止と応急手当の学習では、写真やイラストが多く用いられ、実習が学んだ知識を基に実習を行える学習の流れになっている。</li> <li>・各項目の最後に、学習のまとめとして項末課題「Try」が設けられ、生徒が学習内容を振り返ったり、さらに考えを深めたりするための工夫がされている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「発展」において、興味を深めるさまざまな資料や、現代の健康・環境・安全に即対応できるような内容を掲載し、学習した内容をより深められるようにしている。</li> <li>・すべての章とびらに「小学校で学習したこと」「この章で学習すること」「高校で学習すること」を明示し、系統性のある指導ができるように配慮されている。</li> <li>・「学習のまとめ」では、学習過程で身につけた見方・考え方を確認したり、次の学びにつなげたり、実生活や実社会で活用したりすることができるように配慮されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に各単元2ページで1単位時間が終了する構成になっているが、重要と思われる項目は4ページ構成となっている。前半に体育編の第1学年から第3学年、後半に保健編の第1学年から第3学年の順で構成されている。</li> <li>・ステップ1「とびら・課題をつかむ・きょうの学習・キーワード」の流れで、その章の学習内容をおおまかにつかみ、ステップ2「本文・資料・コラム・実習」で理解を深め、ステップ3「学習のまとめ・章のまとめ」で自ら考え判断し表現できる力を身につける課題設定がされている。</li> <li>・主体的な学びの場が設定できるように話し合いの場面が多く設けられている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や資料が豊富に使用され、見やすい構図になっている。</li> <li>・学習に関連する情報を調べることができるウェブサイトを紹介されており、情報通信を活用し、より詳しく調べられるようになっている。</li> <li>・学習したことを確認できる「保体クイズ」が単元ごとに用意されており、学習のまとめとして生徒個人が振り返りの1つとして活用することができる。</li> <li>・「コラム・事例」が随所に適切に配置され、よりわかりやすく、興味を誘う内容となっている。</li> </ul>			

			種 目	保 健 体 育
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称				発 行 者 名
1 年	2 年	3 年	株式会社 Gakken	
保体 224-72 新・中学保健体育				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された目標が達成できるように、内容と指導計画作成上の配慮事項、内容の取扱いを、適切に取り上げられている。</li> <li>・「章の扉」では、見通しをもたせるようになっている。</li> <li>・「各時間の学習」では、課題が見つけれられるようになっており、身に付けることや、考えたり、判断したりすることについて確認できるようになっている、また、基礎・基本について学習した後に、さらに調べたり、話し合ったりする場が設けられるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元末に「探究しようよ！」が設けられ、学習内容に関連が深い課題を示し、習熟度に応じて指導できるような工夫がされていて、学習指導を進める上で適切であり、心身の発達の段階に適應している。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別構成になっていて、全学年ともに「体育編」が1章、「保健編」が2章構成となっている。</li> <li>・各章の終わりには「章のまとめ」があり、“章で学んだキーワード”が書かれていて、ポイントを押さえやすい。また、“振り返り”を記入する欄では、観点別になっていて、評価しやすい。そして、学習が定着しているか確認するための問題がある。さらに、ページ数も書かれていて分かりやすい。</li> <li>・1単位見開き2ページになっていて、見通しがもって学習できるようになっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに「ウォームアップ」があり、導入しやすくなっている。</li> <li>・「学習の課題」が明記されていて、本時のめあてが明確になる。</li> <li>・「キーワード」があり、学習のポイントが絞りやすい。</li> <li>・「章デジ」というQRコードがあり、外部リンクやワークシートがあり、授業が幅広く展開される。</li> <li>・「エクササイズ」や「学びを生かす」項目があり、自分の頭で考えて判断することによって、思考を深めたり、話し合うことで自分とは違う人たちとも協働したりすることができる。</li> <li>・「課題学習」をスムーズに行えるように、“シートの活用”ができるような、QRコードが読み取れるようになっている。</li> </ul>			

			種 目	保 健 体 育
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	大日本図書 株式会社	
保体702 中学保健体育				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている内容の全てについて、教科及び各小単元の目標が十分達成できるように教科に工夫されている。</li> <li>・省全体の目標が明確になっている。</li> <li>・学習する課題が各小単元に明示されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階と学年に応じて精選された構成になっていて、内容の程度や分量は適切である。</li> <li>・学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携が考慮されている。</li> <li>・見やすい写真やイラスト、関連資料が多く掲載され、生徒の興味・関心を高めるとともに、理解を深められるよう工夫されている。</li> <li>・それぞれの節とリンクする節が書かれていて、関係性を深めながら学習できるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を分かりやすく、より実践的に学習できるようになっている。</li> <li>・学年別構成になっていて、全学年ともに「体育編」が1章、「保健編」が2章構成となっている。</li> <li>・基本的に1単位時間が見開き2ページで構成されている。文章・解説の量が多く、挿絵やグラフなどもカラーで充実していて、生徒が理解しやすいように工夫されている。</li> <li>・指導内容を体系化し、分かるやすくなっており、より実践的に学習できるようにしている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストや写真がカラーで大きく見やすくなっている。</li> <li>・グラフや表などが、視覚的にとらえやすくなっている。</li> <li>・参考資料は科学的根拠に基づいている。</li> <li>・常用漢字や現代仮名遣いが原則となっている。また、見開きページの初出ごとにルビがついている。</li> <li>・キーワードが書かれていて、学習のポイントが絞りやすく、わかりやすい。</li> <li>・表紙は「UVラミコート」できていて、丈夫で汚れにくくなっている。</li> <li>・総ルビ、読み上げ。色反転など、特別支援機能が搭載されている。</li> <li>・デジタル教科書となっている。</li> </ul>			

取扱注意

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

**技術・家庭（技術分野）**

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

		種 目	技術・家庭（技術分野）
教科用図書の記号・番号・名称			発行者名
技術 002-72 新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology			東京書籍 株式会社
観 点	調 査 の 結 果		
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の見方・考え方を働かせた深い学びを実現でき、技術による問題解決に主体的に取り組むことができる工夫がされている。また、技術分野の学習の意義や大切さが伝わる工夫がされている。</li> <li>・ガイダンスの内容が充実しており、社会の中で技術が果たしている役割がわかりやすく表現されている。見通しをもって学習に取り組める工夫や、他教科とのつながりがわかる工夫があり、生徒が主体的に学習できるよう構成されている。</li> <li>・各編には、「D マークコンテンツ」があり、動画やシミュレーションを効果的に用いて、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。</li> <li>・各編の最後には、「つなげる、広げる」学びを設定し、問題解決的な学習で学んだことを生活や社会に生かしたり、技術を適切に評価、選択、管理・運用、改良、応用について考えたりしていく学習ができるようになっている。</li> <li>・環境・消費者・伝統文化・防災・情報モラルなどのマークを設け、現代的な諸課題についても意識しながら学習が進められるように工夫されている。また、随所に「技術の天びん」マークがあり、授業の中で段階的に「技術の見方・考え方」に気づかせる工夫がなされている。</li> </ul>		
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物を利用して、学習の流れや技術の見方・考え方を意識するポイントがわかりやすく示されているため、生徒が活動に際し安心して取り組める工夫がなされている。</li> <li>・「技術の匠」マークとともに社会で活躍する技術に携わる人の簡単なコラムやコメントが掲載され、ものづくりにおける責任感や倫理観、工夫・創造することの大切さを伝えるとともに、職業観や勤労観の育成も図れるよう工夫されている。</li> <li>・巻頭に「技術を読み取る活動」「思考ツールの活用」「フィールドワーク」「インタビュー」「まとめと発表の仕方」などの学習方法を示すことで、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう工夫されている。</li> </ul>		
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各編の章構成を「理解する」「問題解決に取り組む」「つなげる、広げる」と統一されており、新学習指導要領解説で示されている学習の流れと一致している。各編には生徒が問題解決の学習に主体的に取り組めるように、問題解決例が豊富に取り上げられている。</li> <li>・各節の初めに「目標」が示されており、本学習の到達目標がはっきりとわかるようになっている。また、各節末に「自己評価」、各編末には「学習のまとめ」（記述式）が示されており、生徒自身の言葉で学習を振り返ることができるよう工夫されている。</li> <li>・問題解決例ではさまざまな題材を取り扱い、学校の実情に応じた対応ができるよう配慮されている。</li> </ul>		
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭のガイダンスでは、「工夫・創造の力が技術を支える」「技術は夢をかなえるためにある」「技術の最適化って何だろう」「未来を創る問題解決」「技術分野の学習を見てみよう」の順序で構成されており、生徒に夢や希望を抱かせるような工夫が多数盛り込まれている。その中の「最適化の窓」は、生活や社会の中から、技術の工夫に気付くことができるように配慮されている。</li> <li>・豊富な写真やイラストが取り入れられておりわかりやすい。また、誰にでも読みやすく、正確な書体（UD フォント）を使用しており、文章も本文や図表が読みやすく配置されているのでユニバーサルデザインへの取り組みも十分であると判断できる。</li> <li>・基礎的・基本的な技能をまとめてある「TECH Lab（デックラボ）」や各ソフトウェアの操作のポイントが掲載されており、作業やパソコン操作が不慣れな生徒にも、戸惑うことなく作業できるように配慮されている。</li> </ul>		

		種 目	技術・家庭 (技術分野)
教科用図書の記号・番号・名称		発行者名	
技術 009-72 技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて		開隆堂出版 株式会社	
観 点	調 査 の 結 果		
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識や技術の定着により、技術と社会、環境との関わりについて理解が深まるよう工夫されている。また、各内容で、技術に関わる人へのインタビューが掲載されており、生徒のキャリア形成につなげることができるように配慮されている。</li> <li>・「技術の役割」「技術の見方考え方」などガイダンスの内容が充実しており、3年間の学習の見通しが持ちやすくなるよう工夫されている。また、各編の冒頭には、その辺での学習の流れや「技術の見方・考え方」、小学校や他教科との関連が分かりやすく示されている。さらに題材毎に学習の目標が示され、自己評価および学習の振り返りがしやすくなるような工夫がされている。</li> <li>・題材の最初に「学習課題」という見出しを設け、その課題では身近なものを取り上げているため、疑問点などの話し合う内容が設定しやすい。</li> <li>・各内容における実習例が多く、地域や学校の実態にあったものを選択できるよう配慮されている。特に生物育成では「栽培ごよみ」により、栽培する作物を寒冷地と温暖地に分けて記載しているため、実習期間を選びやすくなっている。</li> <li>・各内容の終末には「学習のまとめ」が設けられており、生徒がそれぞれの技術の課題について考えられるよう配慮されている。</li> </ul>		
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどのページの下部に「豆知識」マークを設け、学んだ内容をさらに深められるよう工夫されている。</li> <li>・「学習課題」という見出しがあり、生徒が自ら考え学習できるよう工夫されている。また「CHECK」も設けることで、学習内容を自己評価できるようになっている。</li> <li>・環境や共生に関する内容が、ガイダンスをはじめ、学習場面や各内容の最後で取り扱われており、環境や共生を大切にする実践的態度が身につくように配慮されている。</li> <li>・ガイダンスでは「作業の安全」について、技術室やコンピュータ室、屋外での作業中の生徒の行動が安全であるかを考えてチェックできる工夫がされている。また「安全」マークを設け、作業中に気をつける内容については、その都度取り上げられている。</li> </ul>		
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「ひみつ道具は実現している?」「企業では、どのように製品開発をおこなっているのかな?」というページを設け、アニメの道具や企業の製品開発を例に技術の関連性が示されている。また、各内容について、学習の動機づけ、基礎・基本の確実な習得、問題解決の実施、学習内容の振り返りや評価・活用が重視された配列になっており、今後の学習内容が見通せるよう工夫されている。</li> <li>・小学校や中学校他教科との関連を各内容のとびらページに記載してあるほか、文中で関連がある箇所にはマークが示されており、学年・教科横断的なカリキュラムが立てやすいよう配慮されている。</li> <li>・さまざまな実習例が取り上げられ、学校の施設・設備の実情に応じた取り扱いが可能になるような配慮がされている。また、各内容のページ右上にはその内容に関連した機器や工具が記載されており、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。</li> </ul>		
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容のはじめにその内容についての製品の進歩や「見方・考え方」が示されている。</li> <li>・「環境」マークを使用して、環境や資源、エネルギーへの配慮について、説明したり考えさせたりできるよう工夫されている。</li> <li>・巻末資料として、コンピュータの基本操作が記載されているため、パソコンの操作が不慣れな生徒でも操作に戸惑うことなく作業できるように配慮されている。</li> <li>・基本技能など、教科書の内容に関係するコンテンツを参照できる用にQRコードが用意されている。</li> <li>・文章中の単語が途中で改行されていないほか、読みやすいUDフォントを使用するなど特別支援教育の観点を生かして作られている。また、色の区別がしやすく、色覚に特徴のある生徒への配慮もされている。</li> </ul>		

		種 目	技術・家庭(技術分野)
教科用図書の記号・番号・名称			発行者名
技術 006-73 新技術・家庭 技術分野 明日を創造する			教育図書 株式会社
観 点	調 査 の 結 果		
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の(1)(2)(3)に対応させるように1章「技術を見つめよう」、2章「技術を生かそう」、3章「未来をつくろう」と構成することで、生徒の発達段階に応じて技術の見方・考え方に関心を高め、技術の活用へと育まれるように工夫されている。</li> <li>・「スゴ技」や「技ビト」では地域で活躍する技術や職人を紹介しており、社会の中に生かされている技術に興味・関心をもち、考えられるように配慮してある。</li> <li>・「やってみよう」を授業に取り入れることで、調べたり考えたりしながら、主体的で対話的な学習がしやすいように配慮されている。</li> <li>・別冊スキルアシストを活用しながら、実践的・体験的な活動を行うことで、実践に役立つ知識や技能の習得ができるように工夫されている。また、作業手順や工具の安全な使い方が示されており、事故防止への配慮がされている。</li> <li>・巻頭のガイダンスには「技術の力でだれもが暮らしやすい社会を創る」があり、ものづくりを行う上で誰でも安心して作業ができるよう、特別支援教育に配慮されている。</li> </ul>		
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の理解度や興味・関心に応じて積極的に学習が進められるように、「もっとしろう」や「先輩に聞いてみよう」が掲載されている。また、写真やイラスト、図、グラフなどの資料を大きく配置することで、生徒に技術への興味・関心を引き出させるような配慮がされている。</li> <li>・巻頭では各教室の特徴と安全や安全な作業をする3つの心得を記載してある。また、4つの内容ごとに「実習の安全な進め方」をその内容に応じて記載し、安全や衛生面への配慮が工夫されている。</li> </ul>		
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A～D編の内容が学習指導要領の(1)(2)(3)に沿った構成となっており、実習題材に取り組みながら、「技術の見方・考え方」を働かせることができるように配慮されている。</li> <li>・各編の冒頭に技術の利用例がイラストで示されているとともに、技術と小学校での学習、中学校での他教科との関連が記載してあり、発展的、統計的に学習することができるよう配慮されている。</li> <li>・学習ごとの冒頭の「めあて」とページ末の「振り返る」が対応しており、評価が見取りやすくなっている。また、「めあて」横にある「見つける」の対話的なイラストにより、生徒が疑問や関心を抱きやすくなるよう工夫されている。</li> </ul>		
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文のフォントがユニバーサル書体でサイズも大きく、各内容により色分けがされており、見やすい構成になっている。また適度な余白が設けてあるほか、写真やイラストが見やすくなるように工夫されていたり、カラーバリエーションの観点を取り入れた配色になっていたりするなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。</li> <li>・各内容の最後に「まとめ」を設けてあることで、学んだ知識や技術について確認できるとともに、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の定着の度合いが確認できるように工夫されている。</li> <li>・QRコードを読み取ることで、本文中の作業を動画などでより詳しく見ることができ、作業の効率化が図れる工夫がされている。</li> </ul>		

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

**技術・家庭（家庭分野）**

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	技術・家庭科 (家庭分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
家庭 002-72 新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に示された目標および内容に準拠し、必要かつ十分な内容を取り上げていて適切である。</li> <li>・A 小学校家庭科との関連を図り、「ガイダンス」を設けると共に、「私たちの家族と家庭生活」についての内容を取り扱い、家族や幼児、高齢者の内容が円滑に進められるよう配慮されている。また、「幼児の生活と家族」では、幼児との触れ合い学習について、実習例として「施設訪問」「中学校への招待」「写真・動画での観察」の3通りの例を示しており、学校の実態に応じて、弾力的に扱えるように工夫されている。</li> <li>・B 「衣食住の生活」では、調理や布を用いた製作の実習の場面において「基礎技能」を写真でわかりやすく示し、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるよう工夫されている。また、実習例の数も多いので、生徒の興味関心を高め、学校の実態に応じて内容を選択できるようにもなっている。更に、食品の実物大写真や多くの食品を写真で紹介し、生活経験の少ない生徒でも実感をもって学べるように工夫されている。家庭内事故や自然災害への対策に関する内容が充実しており、暮らしをよりよくする工夫や安全教育が実践できるように配慮されている。</li> <li>・C 「消費生活・環境」では、生活者として自立するために大切な「意思決定のプロセス」を明示し、イラストや漫画、QRコンテンツを用いて楽しみながら実践的・体験的な学習活動ができるように工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」につながる場面として「考えよう」「やってみよう」「調べてみよう」などの活動を多く取り上げ、生徒が主体的に調べたり、友達と協働して比較・検討したりするためのキャラクターからの発問を設けるなど、深い学びの実現や問題解決能力の育成ができるよう工夫されている。</li> <li>・巻頭の「ガイダンス」が充実しており、小学校での学習内容を振り返るとともに、中学校3年間での学習の見通しを持てるよう工夫されている。また、「問題を解決する道筋」や「生活の営みに係る見方考え方」の例がわかりやすく示され、問題解決的な学習方法が定着できるよう工夫されている。さらに、巻末には「生活の課題と実践」や「学んだことを社会に生かす」を設け、家庭分野の学習と将来や社会とのつながりを感じられるように工夫されている。</li> <li>・写真や図版は生徒の視線を大切にしており、発達段階に応じて理解できるよう、効果的に配置されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の学習を踏まえた内容を取り扱う場合には「小学校」のマークが示され、小中学校の系統性を意識できるよう工夫されている。</li> <li>・「リンク」マークを用い、他の分野で関わりのあるページを示したり、「他教科リンク」マークを用いて他教科との関連についても明記したりと、横断的に学習内容が理解され深い学びとなるよう配慮している。特に、技術・家庭科の特質に応じた道徳教育に関連する場面が随所に示され、道徳教育の充実にも配慮がされている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台端末に対応し、無料のデジタルコンテンツが用意してあり、教科書に「Dマーク」が掲載してあるページは関連する動画を視聴することができる。</li> <li>・実物大の写真も含め写真の数が多く掲載されているので、生徒の興味関心を高め、見やすく実感をもって学習に取り組める工夫がされている。</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点から、ユニバーサルデザインフォントを使用するとともに、配色とデザインについて配慮されている。</li> </ul>			

			種 目	技術・家庭科(家庭分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	開隆堂出版 株式会社	
家庭 009-72 技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された目標および内容に適合しており、適切である。</li> <li>・項目ごとに「学習の目標」が明確に示されており、生徒自らが本時の授業で学ぶことを見通しながら授業に取り組めるように工夫している。</li> <li>・単元ごとに「持続可能な〇〇生活」のページを設け、環境教育とのつながりをもたせることで、持続可能な社会における生活スタイルについて考えられるよう工夫している。</li> <li>・A 家族・家庭生活では、多様化する家族形態に触れており、地域の中で共に生活する視点で項目が構成されている。生活に必要な費用についても触れており、家庭の仕事としてお金の管理の必要性を学べる工夫がある。</li> <li>・B 衣食住の生活では、日本各地の様々な地域の特徴や日本文化が示されており、日本の良さを認識できる。また、各内容の最後には、グローバルな視点から今の自分たちの生活を考えさせる記事などが効果的に配置されている。</li> <li>・C 消費生活・環境では、他の学習内容と関連付けて取り扱い、消費者としての実践的態度が身に付けられるように工夫されている。</li> <li>・学習内容に関連する資料「参考」や他教科との関連、課題提起「話し合ってみよう」「考えてみよう」が取り上げられており、話し合い活動や意見を述べる活動などの言語活動ができるように設定されている。特に巻末には「災害からいのちと生活を守るために」のページが設けられ、防災意識が高められるよう工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図表、イラストが豊富に記載され、発達段階を十分に考慮した上で、生徒が具体物をイメージできるように配慮されている。特に、「幼児の生活と遊び」では、幼児の様々な表情をとらえた写真を多く用いてイメージが膨らむよう工夫されている。</li> <li>・多様な事例を採用することにより、生徒の生活経験の不足を補えるよう配慮されている。</li> <li>・「健康と食生活」では、食品群別摂取量のめやすで1回の食事で食べやすい量が示してあり、献立を考える際の参考になる。また、食品の実物大写真を載せ、食品への興味関心を高めると共に、食材名の定着が図れるよう工夫されている。</li> <li>・巻末に「生活の課題と実践」があり、生徒が学んだことを主体的に生活に生かすことができるような実践例が多数取り上げられ、生徒の課題に合わせて多様な学習ができるよう工夫されている。</li> <li>・防災について、本文で記述に加えて特設ページが設けられており、日常的な備えの重要性が示されるとともに災害時に知っておくべき情報を詳しく記述していることで防災意識を高める工夫がされている。</li> <li>・選択の「生活の課題と実践」では、生徒の日常生活の中から問題を見出し、課題を設定できるように、ヒントが提示されており、主体的にさまざまな解決方法を考える手立てが示されており、主体的・対話的・深い学びを通して課題を解決する力が養える</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画に合わせた配列である。</li> <li>・「小学校での学び」が設定されており、章のはじめに小学校の振り返りができることで、小中学校間の系統性が図られている。高等学校に関連が深い内容は「発展」として扱われている。</li> <li>・アイコンを用いて分かりやすくまとめてあり、「リンク」では関連する他の内容項目が、「他教科」では、技術分野や他教科との関連が数多く設定され、学習のつながりを意識し、横断的に理解が図れるようにしている。カリキュラムマネジメントを進める中で役立つと考えられる。</li> <li>・学校の実状に応じて、選択できるような製作実習例・参考例が豊富である。また、順序の組み換えがしやすく工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後にさくいんがあり、キーワードから教科書の記載ページがすぐに検索できるようになっている。</li> <li>・発展的な学習のページでは、現象を科学的な観点から解明できるような実験がカラーで示されている。</li> </ul>			

			種 目	技術・家庭科 (家庭分野)
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育図書出版 株式会社	
家庭 006-72 新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する				
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された目標及び内容に適合しており、適切である。</li> <li>・「見つめる」→「学ぶ」→「振り返る」という一連の流れに沿って学習しやすい構成になっている。項目ごとに「めあて」を明記し、重要な語句が「キーワード」で示されているので、学習のねらいや基礎的・基本的な内容が明確になり、見通しをもって学習に取り組んでいけるような工夫がされている。</li> <li>・各分野ともに実習例が豊富に掲載されているので、生徒の興味関心や技能の個人差に応じて選択できるように工夫してある。</li> <li>・食文化では全国の伝統野菜やだしの材料、郷土料理などに触れ、多くの資料を用いながら日本の食文化である「和食」の良さを知る手立てとなっている。また、世界に目をむけた資料も多く掲載されており、グローバルな視野を広げる工夫もされている。</li> <li>・「考えてみよう」「話し合ってみよう」では生徒の身近な問題を取り上げ、自分の生活をイメージしながら考えを進めていけるように工夫をしている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の生活経験に配慮し、写真やイラスト、アニメのキャラクターが用いられている。また、多様な調理器具や食材の切り方を原寸大で掲載するなど、視覚的にとらえやすい表示がみられ、発達段階に配慮されている。</li> <li>・「健康と食生活」では、食品の揭示数、調理例、作品例などを写真で数多く掲載し、生徒や学校の実情に合わせて、生徒の興味関心を高めながら実践的、体験的な学習を進める工夫をしている。</li> <li>・「参考」「資料」マークでは、学習内容をさらに深めるための資料が多く掲載されている。</li> <li>・章末には「学習のふり返し」から「生活の課題と実践」へとつなげ、自分の課題を見つけ、問題解決的な学習が行えるよう工夫している。</li> <li>・実習時の安全や注意事項をイラストや写真、「安全」「衛生」マークを用いてわかりやすく示している。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康と食生活」では、6つの基礎食品群において、6つのグループを色により区分しており、その色分けを献立作成の学習まで続けて使用することで、関連性が明確に理解できるよう工夫されている。また、食品の数も多く掲載されていて、食材の分量を考える上で参考になる。</li> <li>・「リンク」マークにより、小学校の内容との関連が図られており、また、技術分野や他教科の学習内容を必要に応じて関連つけて示されている。</li> <li>・新学習指導要領で新しく加わった「蒸す調理」については、フライパンを使った蒸し料理例が掲載されており、調理実習の計画を立てる上で参考になる。また、身近な調理用具について調理別に分類しながら複数の種類を紹介したり、実習例を豊富に示したりと学校の実情に合わせて学習できるよう工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭の口絵では、日本の年中行事がイラストや写真でわかりやすくまとめてある。</li> <li>・イラストが数多く描かれており、生徒の興味関心を高め、楽しく学習を進めていけるような工夫をしている。</li> <li>・単元ごとの最後にある、学びを生かそうでは学習内容を振り返り、今後取り組みたいことを考えたり、学習内容を振り返ったりすることができる。</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )

英 語

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	英 語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	開隆堂出版 株式会社	
英語009-72 Sunshine English Course 1	英語009-82 Sunshine English Course 2	英語009-92 Sunshine English Course 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本文化、キャリア教育、科学技術、異文化理解、スポーツ、国際協力、環境、SDGsなどのテーマ</li> <li>・ 本文（左頁）、右側は本文内容を振り返る活動（リテリング）、次に読む、話すつながっている</li> <li>・ Part3本文 → Review, Retell → まとまった英文を読む → 書く活動</li> <li>・ 課と課の間に文法の説明ページがある</li> <li>・ 課の最初に漫画で場面状況が描かれている</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の発達段階に応じた学習ができるよう題材や言語材料が精選され、学年が上がるにつれて身近な話題から社会的な話題に移っていくことに加え、活動内容も徐々に難易度が上がっている。また本文ページ及び言語材料の分量は週4時間の指導時数に照らして適切であり、年間140時間での指導・学習が余裕を持ってできるように編集されている（1年88時間 2年98時間 3年95時間）。</li> <li>・ 本文終了後にその内容を再話する活動（Review &amp; Retell）が設定され、本文内容を整理して自分の言葉で話すことが求められる。単元末のActionでは、題材に関連したテーマで行う自己表現活動が設けられており、いずれも思考力・判断力・表現力が無理なく育成できるよう工夫されている。年3回のOur Projectでは、発表活動後に振り返りができるように設定されているため、主体的に次の活動に向かう姿勢を養うことができる。</li> <li>・ 小学校外国語との橋渡しとして、1学年導入期に小学校英語を振り返る活動（インタビューゲームや英語すごろく）、各単元脚注のSmall Talkで小学校での学習内容を含む既習表現を使う活動、通常課のSceneで目的・場面・状況が明確なマンガ形式での進出表現の導入等、場面シラバス中心の小学校英語と同じプロセスで学習できる構成となっている。</li> <li>・ 3学年を通じて段階的に本文語数を増やしており、2・3年生では通常課に加えて、Reading課も設置されている。さらに3年生にはFurther Reading1~3で400~600語程度の多読・速読用読み物も設けられており、高校入試に十分対応が可能である。</li> <li>・ 他教科との横断的な指導がしやすい題材を多く取り上げている。日本食等の身近なテーマから、社会問題、平和や国際貢献に関する話題まで、社会、技術・家庭、道徳などそのテーマは多岐にわたっている。</li> <li>・ QRコンテンツが充実しており、本文・語句の音声、単元のアニメーション動画、文法解説動画、発表モデル動画等を自由に活用し、学校だけでなく家庭での自学自習を促すことができる。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元のとびらページにはGOALSとして単元の目標を掲示しており、学習の見通しを立てることができる。さらに、目標の達成状況を振り返るチェック欄がある。</li> <li>・ 言語材料は基礎・基本事項が精選され、易から難へ配列されており、4技能5領域の活動を通じて身に付けられるように工夫されている。</li> <li>・ Our Projectでは、学年が上がるにつれて身近な話題から社会的な話題に移っている。</li> <li>・ 通常課の構成は3年間を通して統一されているため、学習の流れを見通しやすい。</li> <li>・ 本文ページ、および言語材料の分量は週4時間の指導時数に照らして適切であり、年間140時間での指導・学習が余裕をもってできるように編集されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身に付ける技能に特化した構成となっている。リテリングにも取り組みやすい。</li> <li>・ 学習文法事項がUnit毎に1ページに</li> <li>・ それぞれの課の表紙には、「こんな表現ができる」という絵と場面があり、GOALSとリンクしている</li> <li>・ 各学年3つほど、文化や英語のことばについてのミニ知識が載っている</li> <li>・ 巻末にQ&amp;Aがテーマごとに書かれている</li> </ul>			

			種 目	英 語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	株式会社 三省堂	
英語015-72 NEW CROWN English Series 1	英語015-82 NEW CROWN English Series 2	英語015-92 NEW CROWN English Series 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ、日本文化、漫画、非常食、環境問題、公平、デザインなどのテーマを扱っている</li> <li>・1年 本文の隣の頁右下に書く部分あり</li> <li>・左側に「聞く、話す、文法」、右ページに本文という構成になっている</li> <li>・文法説明の頁には、漫画形式で場面状況を設定してある</li> <li>・課の最初の部分で、即興でテーマについて会話する活動が組み込まれている</li> <li>・1つのレッスンが4～5つのsceneで構成され、キャラクターのストーリーから表現や文化を学ぶようになっている</li> <li>・レッスンを通して段階的に学び、課の目標の言語活動に向けて、考え表現する構成となっている</li> <li>・技術、理科、社会、保健体育、音楽、道徳など他教科と結びつける内容を扱っている</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材は、各学年で生徒の発達段階を考慮し、自分自身(思い出、将来の夢)→地域社会(災害への備え)→国内(落語、マンガ)→海外(海外の生活、ホームステイ)→普遍性(音楽、平和)といった、身近なものから世界的なものに広がるよう構成されており、深い学びにつながる発問を通して、生徒の考えや気持ちを引き出したリ、感情に訴えたりするなど、生徒が主体的に題材に関わるように配慮されている。</li> <li>・言語材料や言語活動は平易なものから複雑なものへ段階的に配列され、全体として系統が工夫されている。具体的には、音声から文字、練習活動からコミュニケーション活動へと授業がスムーズに流れるように活動が設定されている。</li> <li>・1単元1ページあたりの語彙数・英文量は学年が進むにつれ徐々に増えている。(最終単元における語彙数…1年 60-60-141 2年 65-61-233 3年 79-107-363) また、語彙は発信語彙と重要語彙の考え方が意識されており、発信語彙は繰り返し何度も触れられるように工夫されている。</li> <li>・小学校からの学習の橋渡しの活動(ゲームやアクティビティ)が1学年の導入時期から夏休みまで設定されており、「聞く」「話す」から「読む」「書く」へ段階的に繰り返し学習することができる構成になっている。</li> <li>・QRコードを読み取るデジタルコンテンツで、生徒が主体的に学習する工夫(発音チェック、モデル動画、文法解説動画)が充実している。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語材料や言語活動は平易なものから複雑なものへ段階的に配列され、全体として系統が工夫されている。</li> <li>・1ページ1時間の授業を想定した紙面構成、ねらいや場面設定、使いたい表現の提案、表や図などを用いて手順をわかりやすく提示した活動など、教師にも生徒にも使いやすい紙面である。</li> <li>・取り扱っている教材は、生徒の発達段階を考慮した適切な分量である。</li> <li>・語彙は発信語彙と受容語彙の考え方が意識されており、発信語彙は繰り返し何度も触れられるように工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を英語にする考え方のヒントが書かれている頁がある</li> <li>・音読のコツを説明している頁がある</li> <li>・既習事項を「さいころトーク」や「ランキング」で振り返る部分がある</li> </ul>			

			種 目	英 語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
英語002-72 NEW HORIZON English Course 1	英語002-82 NEW HORIZON English Course 2	英語002-92 NEW HORIZON English Course 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の習得と活用を繰り返しながら、思考力・判断力・表現力の育成を目指す</li> <li>・どの単元も目的・場面・状況を意識して活動に取り組める仕組み</li> <li>・スモールステップでゴールにつなぐUnit構成となっている</li> <li>・1年前半は、右下の頁に書く部分（書く内容は指示されている）</li> <li>・落語、イギリス文化、シンガポール、食文化、UD、SDGs、アニメ、ガンディーなどのトピックを扱っている</li> <li>・課の後に文法の説明の頁には、会話文があり場面状況が分かるようになっている</li> <li>・課と課の間にリスニング、読解、発表、ディベートなどの活動ができるようになっている</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の段階的な成長の実現に向けた課題設定がなされており、各学年のテーマが明確である（1学年：身近な話題を英語で伝え合う経験を積む 2学年：相手意識を持ってやり取りし、自分とは異なる考えや価値観に触れ「心」を育てる、3学年：協働の活動を通して他社の多様な生き方や考え方に触れ地球市民としてどう生きるかを考える）。特に、今日的課題である SDGs、多様性と人権、防災・安全、環境・資源エネルギーに関する題材が設置され、生徒が身近なことから世界に向けた視点を学び、自分に何ができようかを思考することができるよう工夫されている。</li> <li>・単元構成は、ゴールから逆算したバックワードデザインとなっており、各題材についてまとまりを重視した単元学習の流れ（単元を貫く問い、思考ツールの紹介）となるようスモールステップが工夫されている。</li> <li>・1単元1ページあたりの語彙数・英文量は学年が進むにつれ徐々に増えている。（最終単元における語彙数 1年 77-80-75 2年 52-68-109-112 3年 71-83-296）また語彙数は、小学校 630 語とし、中学校約 1,700 語を加えた約 2,300 を扱っている。そのうち、800 語を「発信まで使えるようになりたい語」とし、繰り返し提示して定着できるように設置されている。</li> <li>・小学校との連携を図るために、1 学年前半の単元を小学校の言語材料や単語を配置している。また Sounds and Letters で音と文字の関係が扱われ、小学校の音中心の学び方から中学校での読み書きにつなげる工夫をしている。また高校との連携を図るために、段階的にリーディングの語数が増やされ、発達段階に合わせた課題が設定されている。</li> <li>・生徒が主体的に、自分の学習段階に合った学習に取り組めるよう 277 箇所もの QR コードが設置され、本文のアニメーション動画や音声動画、Key sentence の解説動画等を、学校や家庭で学習する際に活用できる。また、3 学年分の学習内容にアクセスできるよう配慮されている。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年の冒頭のNice to Meet You!で小学校外国語活動で学習した会話表現や単語の復習、Unit 0において、アルファベットや発音の学習が設定されており、中学校英語との円滑な接続が図れるよう工夫されている。</li> <li>・2、3年もUnit 0において前学年の復習が行われている。</li> <li>・2、3年においては各Unitの構成がUnit Question, Part, Read and Think, Unit Activityという流れになっている。Unit Questionでは単元を貫く問いによる導入、Partで新出文法を含む対話文・物語文・説明文など、Read and Thinkにおいてラウンドリーディングでより深い読解、Unit Activityにおいては「目的・場面・状況」を意識して行うゴールの活動をする。</li> <li>・生徒がもっと学びたくなる工夫として、「学び方コーナー」「Real Life English」「Small Talk（動画つきでくり返し練習できる）」、「QRコンテンツ（自分に合った学び方が見つかる）」などがある。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きで本文の頁が多い</li> </ul>			

			種 目	英 語		
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名		
1年	2年	3年	株式会社 新興出版社 啓林館			
英語061-72 BLUE SKY English Course 1	英語061-82 BLUE SKY English Course 2	英語061-92 BLUE SKY English Course 3				
観 点					調 査 の 結 果	
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な話題（部活、学校行事）、日本・世界を知る（和菓子、祭り、世界遺産） 環境問題、防災、職場体験、科学技術、人権、UD ←SDGs</li> <li>・1年 会話文の次のページ下を書く部分がある</li> <li>・本文の後に Express Yourself（やり取り）、Think and Speak（聞く）の活動ができる流れになっている Express Yourselfの部分は、場面や状況に合わせてどう表現するかという活動</li> <li>・本文→聞く→話す→書く の流れで活動ができる</li> <li>・文法のまとめが課の後にある</li> </ul>					
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を引き付ける内容や、日本や世界で今起きていることなどを知り、考えることができる出来事を題材として取り扱っている。</li> <li>・年間配当時数は、1年103時間、2年109時間、3年90時間から成り、余裕を持って学習することができる。</li> <li>・小学校英語の流れも汲みながら、学習段階に応じて聞く・読む分量を増やすことで、聞く・読む力を育成することができる。</li> <li>・語彙は、3年間で2,400語程度（小学校既習語を含む）に触れられるように配置している。</li> <li>・中中連携として、1学年巻頭に中中接続教材を設定し、小学校での学習事項を振り返り、中学校の学習につなげることができる。また小学校において音声で慣れ親しんだ表現を文法的に整理し、確かな定着が図られている。</li> <li>・中高連携として、学習段階に応じて聞く・読む分量を増やしたり、活動を設定したりして高校での学習にも対応できる力を育成することができる。</li> <li>・QRコードを読み取ることで、から音声や動画等のデジタルコンテンツを活用することができる。学校や家庭で繰り返し視聴する等、個別最適な学びができるように設定されている。</li> </ul>					
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で「聞く」「話す」で慣れ親しんだ表現を、1年のUnitを通して文法的に整理。</li> <li>・各Unitの構成→とびら（Unitの目標を確認し、題材に関するスキーマを活性化） →Part（本文を通して新出文法が使われている場面を確認） →Read/Listen&amp;Think【2・3年のみ】（Unitのテーマに沿った、まとまった分量のある英文を聞いたり、読んだりする）→Think&amp;Speak/Write（単元末の活動として、学んだ表現を使いながら言語活動に取り組む）</li> <li>・Project 各学年3か所（各単元末の想定）にProjectを配置している。（3年のみ2か所）。 思考力・表現力・判断力をさらに育成する。</li> <li>・年間140時間で余裕をもって授業をすすめられるように配慮。（1年103時間、2年109時間、3年90時間）</li> </ul>					
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Think and Speak や Think and Writeなど思考力・判断力・表現力をつける工夫がある</li> <li>・英文を読むコツ（英文のしくみ）、英文を書くコツ（マッピング）の頁がある</li> </ul>					

			種 目	英 語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	光村図書出版 株式会社	
英語038-72 Here We Go! ENGLISH COURSE1	英語038-82 Here We Go! ENGLISH COURSE2	英語038-92 Here We Go! ENGLISH COURSE3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人の中学生の姿から豊かな情操と道徳心を培う工夫</li> <li>・実社会に即した多様な場面や豊富な素材を扱っている (盲導犬、杉原千畝、AI、学校行事)</li> <li>・1年導入の部分は多め フォニックスを少し扱っている</li> <li>・本文 →聞く→ 話す→ 書く 流れが定まっている</li> <li>・課の後の文法の説明は、ストーリーの場面に沿ってされている</li> <li>・Retellingの部分が組み込まれている</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリーの題材は、発達段階を考慮し、1年では夏祭りや初詣等、2年では外国旅行や防災教育等、3年では動物保護、平和学習、AIと言語学習等、身近な題材から徐々に視野を広げ、社会の様々な問題について考えを深められるよう配慮されている。また各学年とも年間8単元から成り、学習や指導の上で無理がなく適切な分量である。</li> <li>・学習の対象となる総新語数は1,659語であり、そのうち発信語彙の目安となる重要語484語を設定している。他に小学校の既習語578語(うち重要語417語)を繰り返しの学習語として設定している。指導時の目安を1年100時間、2年103時間、3年95時間とし、地域や学校、生徒の実態に応じて柔軟な指導計画を作成できるよう、余裕を持たせている。</li> <li>・小中接続期には1年巻頭の導入教材を用い、小学校の既習事項を生徒が効率よく学習できるようにし、小学校から中学校の学習に円滑に接続できるようにしている。</li> <li>・教科書のQRコードを通じて、音声、動画、理解度を確かめるピクチャーコンテンツ、即興的に話す活動を支える動的コンテンツ、発展的なリーディング教材を活用することができる。内容及び難易度は教科書及び中学生の発達段階に合致している。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を通じて「できるようになること」を系統的に設計。各学年・各学期の目標を構造化して明確に提示している。また、既習事項をスパイラルに活用できる構成。</li> <li>・Unit本文は4人の個性豊かな中学生が交流し成長していく物語を通して、思いやりの大切さなどを自分のこととして共感できるように配慮している。</li> <li>・言語習得理論に沿ったUnitの構成。Unitは扉→Part→Goalという一貫した構成。Unitの目標(CAN-DO)を具体化したGoal活動に向かって学習を進められるよう各活動が設定されている。</li> <li>・思考力・判断力・表現力を養うYou Can Do It!→各学年3カ所(各学期末)にまとめとして設けたYou Can Do It!はUnitの学習が定着するように系統的に構成され、学習した知識・技能を活用して、言語活動に取り組めるようにしている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての学年で 本文の右側の頁は「聞く、話す、書く」活動の流れになっている</li> <li>・文法の説明に、状況場面の設定がされている</li> </ul>			

			種 目	英 語
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育出版 株式会社	
英語017-72 ONE WORLD English Course 1	英語017-82 ONE WORLD English Course 2	英語017-92 ONE WORLD English Course 3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1年) SDGs</li> <li>・ (2年) 盲導犬、環境問題、UD、ハロウィン、落語、手話</li> <li>・ (3年) 宇宙、大谷選手、進学について、ドギーバッグ (ディベート)</li> <li>・ 課ごとに文法のまとめが掲載されている</li> <li>・ Q and Aの例が載っている</li> <li>・ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと (やり取り)」「話すこと (発表)」の5つの領域別の活動が課と課の間にある</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元の題材内容については、生徒の発達の段階、興味・関心に配慮し、クラス内での自己紹介から、学校や地域、国内、海外へと様々な分野について、徐々に視点が広がっていくように構成されている。</li> <li>・ 言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、「文、文構造及び文法事項」を丁寧に取り上げ、学習の進度や言語活動との関連を踏まえて、バランス良く、段階的に配置されている。また各言語材料はコミュニケーションを支えるものとして、どのような目的や場面、状況で使われるかを生徒が理解できるよう各単元冒頭で示している。</li> <li>・ 言語活動は、「知識及び技能」を活用して「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるための具体的な活動となるよう、また生徒自身の興味・関心や経験等を発信できるように、各コーナーに適切に配置している。</li> <li>・ 他教科 (国語、社会、理科) 及び道徳とのつながりがある題材を多くの単元で取り入れている。</li> <li>・ 小学校の外国語活動で行ったコミュニケーション活動について、Springboard1~6 で振り返りができるようにしている。また1学年の早期段階に小学校で学習した表現や文型、文法事項を扱うことで基本的な表現の定着と中学校で学習する言語材料を導入する前の振り返りの機会としている。</li> <li>・ 高等学校との接続として、新出文法事項は3学年単元語5までに学習し終える構成となっており、高校入試までに定着を図る期間を確保している。読み物の語数は段階的に増加し、約600語までの英文を読む訓練を積めるようになっている。</li> <li>・ 教科書の二次元コードを通じてアクセスするウェブサイト「まなびリンク」において、音声、動画、ワークシート等を利用することができ、協働学習・個別学習・家庭学習にも活用することができる。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lessonの冒頭に「単元の目標」を示し、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にし、Lesson末のTaskで単元の目標に関連したやり取りや作文、発表をする構成にしている。学習の見通しを立てて、コミュニケーションの目的を意識しつつ、Lesson内の各活動を進めていけるように工夫している。</li> <li>・ Lesson間には5領域に関わるさまざまなTipsやUseful Expressions 等が配置されており、統合的な活動を年3回行うProjectも併せて、5領域の力をバランスよく伸ばし、基礎から実践的な活動まで行けるように構成している。</li> <li>・ 帯活動などでかつようすることで既習言語材料の定着を図るActive Plusを設け、既習の言語材料を使って表現することができるQ &amp; A を配置し、ペア・ワークなどを通して「話すこと [やり取り]」を取り入れる機会を豊富に設けている。</li> <li>・ 文構造・文法は、関連のあるものと同じLessonや連続したLessonで扱うなど、バランスよく配列している。</li> <li>・ 各学年とも7~9つのLessonと、新出の文構造・文法事項が登場しないReading、Further Reading から成っている。年間指導時数内で余裕をもって指導できる。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文 → 基本文 → 反復練習 → リスニング → 表現する活動の流れで掲載されている</li> <li>・ 既習文法を用いた10個ほどのQuestions and Answersが、課の後に4~5回行えるようになっている</li> </ul>			

令和7年度使用中学校用教科用図書  
調査研究資料  
( 報 告 書 )  
  
道 徳

鹿沼市立小中学校教科用図書調査員会

			種 目	特別の教科 道徳		
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名		
1年	2年	3年	日本文教出版 株式会社			
道徳116-73 中学道徳 あすを生きる1	道徳116-83 中学道徳 あすを生きる2	道徳116-93 中学道徳 あすを生きる3				
道徳116-74 中学道徳 あすを生きる1	道徳116-84 中学道徳 あすを生きる2	道徳116-94 中学道徳 あすを生きる3				
道徳ノート	道徳ノート	道徳ノート				
観 点	調 査 の 結 果					
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA21, B18, C45, D21の教材で構成されている。</li> <li>・全学年において、各視点の教材数が、A7, B6, C15, D7で統一されている。</li> <li>・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、内容項目「生命の尊さ」に関しては、全学年とも三つの教材が用意されており、特に重点化が図られている。</li> <li>・いじめの問題について、A, B, Cそれぞれの視点において、様々な内容の教材が取り上げられ、多面的、多角的に考えられるよう工夫されている。</li> </ul>					
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題名が明確に記されている。</li> <li>・各学年の教材が生徒の発達段階に即した内容と文章量で構成され、考え、議論する時間が十分に取れるよう配慮されている。</li> <li>・内容を理解しやすい多種多様な教材（絵本・写真・漫画・歌詞等）があり、場面を捉えやすい。また、生徒の興味・関心をひきやすい。</li> <li>・内容項目「生命の尊さ」に関しては、重点化が図られており、「いじめと向き合う」という項目がどの学年にも設けてあり、「自分たちの問題として捉え、いじめを許さない心を育てる」教材が充実している。いじめの問題に関しても、A, B, Cそれぞれの視点において、様々な内容の教材が取り上げられ、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。</li> <li>・多様な視点から学べるように、テーマの一部を基に複数の教材とコラムを組み合わせたユニット「いじめと向き合う」「よりよい社会を考える」が設定されている。</li> <li>・道徳ノートでは、中心発問とそれに対する自分の考えを記載できる欄が設けられており、「自分に+1」では、実生活と結びつけて自分のこれからについて考え記入させる欄があり発展的になっている。</li> </ul>					
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容項目が過不足なくおさえられた教材となっており、重点項目には複数の教材が掲載されている。</li> <li>・生徒の発達の段階に即して道徳性を育成するために、各学年にテーマを設定している。1学年・・・新しい自分と「であう」 2学年・・・人との関係を「みつめる」 3学年・・・よりよい人生を「ひらく」。</li> </ul>					
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理なく活用できそうな道徳ノートがあり、進め方がわかりやすい。生徒の変化・成長が継続的に記録され、成長過程を見とる手がかりとなり、評価に活用できる。</li> <li>・「問題解決的な学習」や「体験的な学習」に適した教材には、参考例として「学習の進め方」を設け、授業の展開をイメージしやすい。</li> </ul>					

			種 目	特別の教科 道徳
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	東京書籍 株式会社	
道徳002-72 新編 新しい道徳1	道徳002-82 新編 新しい道徳2	道徳002-92 新編 新しい道徳3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA21, B21, C42, D21の教材で構成されている。</li> <li>・全学年において、各視点の教材数が、A7, B7, C14, D7で統一されている。</li> <li>・四つの視点ともバランスよく取り上げられている。</li> <li>・いじめの問題については、ユニット「いじめのない世界へ」が全学年に設けられ、三本の教材通して、いじめ問題を多面的・多角的に考えることができる。漫画やイラストなどを用いた教材で内容の理解を促すとともに、立場の異なる視点で考えさせる資料を掲載することで見方や考え方が深まるよう、工夫されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を通して、どのようなことを考えるのか（テーマ）を生徒に投げかける表現で示している。</li> <li>・教材の内容に関連するマンガの一部がテーマの下に掲載されている。漫画やグラフなど、様々な形の教材があり、生徒の興味・関心をひきやすい。</li> <li>・問題解決的な学習（2時間扱い）の教材が、各学年1カ所入っている。活発な話し合い活動にもつなげられる。</li> <li>・挿絵や写真がシンプル、仰々しくない。・教科書の大きさが横版。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の教科書が、オリエンテーション・本編・付録の3つで構成されている。オリエンテーションで道徳授業の基本的な流れや、話し合い活動のやり方について学習するため、本編にスムーズに入っていくことができる。</li> <li>・学習指導要領の内容を漏れなく扱い、学校行事や生徒の生活実態に合わせ、指導内容と指導時期を考慮して配列されている。</li> <li>・「いじめ問題」と「生命尊重」の教材をそれぞれユニット化し、一つのテーマを集中して扱うことで、道徳性を養えるよう配慮されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒2人と先生、案内役のキャラクターを要所に配置し、学習の流れを案内するとともに、興味・関心を引き出している。</li> <li>・難しい表現はさげたり、マンガ教材を取り上げたり、生徒にとって親しみやすい教材になるよう配慮されている。</li> <li>・挿絵やレイアウトが工夫され、生徒を引き込む工夫がされている。</li> <li>・各教材に「つぶやき」コーナーが設置され、生徒が考えたことや思ったことを自由に書き込むことができ、話し合いや振り返りの材料として活用できる。</li> <li>・「ぐっと深める」発問を補助発問として活用することで、生徒の思考の深めることができる。</li> <li>・巻末に切り取り式の自己評価用紙を用意し、学期ごとに生徒が自己評価を行い、提出できるよう配慮してある。</li> </ul>			

			種 目	特別の教科 道徳
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	あかつき教育図書 株式会社	
道徳232-73 中学生の道徳1	道徳232-83 中学生の道徳2	道徳232-93 中学生の道徳3		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA24, B21, C36, D24の教材で構成されている。</li> <li>・また、四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、[自主, 自立, 自由と責任]、[思いやり, 感謝]、[生命の尊さ]、[よりよく生きる喜び]の四つの項目においては全学年三つの教材が取り上げられ、特に重点化されている。</li> <li>・著名人やスポーツ選手などの生き方から学ぶ教材が多く取り上げられている。</li> <li>・全学年において、各視点の教材数が、A8, B7, C12, D8で統一されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料について、多角的に考えられるよう、登場人物ごとの立場に立って考える発問や、自分事に返すために「自分との対話」という発問が設けられている。</li> <li>・ThinkingやMY PLUAS、QRコードなど資料をより分かりやすくするための資料が豊富に入っている。</li> <li>・教科書の巻末に学期ごとの学習の記録、1年間の学習の記録が残せる用紙がついていて、振り返りに役立つ。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発達段階に配慮しながら、各教科の学習内容や他の教育活動などとの時期的・内容的関連を考慮した配列となっている。</li> <li>・オリエンテーションで活用できるよう、全学年冒頭に道徳科の学習がどのようなものなのかイメージしやすくなる資料を入れている。</li> <li>・いじめについて考える資料、情報モラルの資料、キャリア教育の資料、共に生きる社会の資料がまとめられていて、集中して考えられるように配置されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校指導要領総則第6「道徳教育に関する配慮事項」から、「自主, 自律, 自由と責任」「思いやり, 協力」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」の四項目を重点項目とし、全学年で各項目を年間三時間位置付けている。</li> <li>・軽量で、持ち運びしやすいB5版である。</li> </ul>			

			種 目	特別の教科 道徳
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	日本教科書株式会社	
道徳233-72 道徳 中学校1 生き方から学ぶ	道徳233-82 道徳 中学校2 生き方を見つめる	道徳233-92 道徳 中学校3 生き方を創造する		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA24, B20, C42, D16, ガイダンス3の教材で構成されている。</li> <li>・四つの視点ともバランスよく取り上げられている。</li> <li>・「思考」重視への転換から、ストーリーを読ませず、話し合い中心に道徳が進むよう視覚教材や動画が見られるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容項目順に教材が掲載されていて、学校の内情に合わせて教材の配列を自由に組み立てることができる。デジタル教科書で目次の並び替えができ、目次から教材にジャンプできるようになっている。</li> <li>・表紙や資料の絵が目を引きものになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容項目順に教材が配置されており、A, B, C, Dのどれに関するものかが分かりやすい。</li> <li>・1年間計画を検討する際に教科書に掲載している順番にしばられることなく、各地域・学校の特色等に応じて自由に教材を生かすことができる。</li> <li>・1年生のガイダンス授業では、「みんな違うが当たり前」を共有し、それでも認め合えるよう工夫されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本書の後方にウェルビーイングカードが付属しており、生徒自身の考えや、自己理解・他者理解に利用できるようになっている。また、生徒どうしの話し合いが活発になる可能性を秘めている。</li> <li>・ウェルビーイングカードは道徳科だけでなく、ホームルームなどでも活用できるようになっている。</li> <li>・現代的な課題に向き合えるよう、どの学年にも、情報モラル・いじめ・ジェンダーなどについて考える教材が取り入れられている。</li> </ul>			

			種 目	特別の教科 道徳
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年		
道徳224-72 新版 中学生の道徳 明日への扉 1	道徳224-82 新版 中学生の道徳 明日への扉 2	道徳224-92 新版 中学生の道徳 明日への扉 3	株式会社Gakken	
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて、内容項目の4つの視点が適切に取り扱われている。</li> <li>・ 「いのちの教育」を重点テーマとしている。「生命の尊さ」に関して、全学年とも3つの教材が用意されているとともに、他の内容項目とともに生命について多面的・多角的に考えられる教材が複数取り上げられている。</li> <li>・ SDGs（持続可能な開発目標）とキャリア教育、多様性について、全学年でユニット学習として取り上げられており、複数の教材で連続して学ぶことで、テーマについて考えを深められるようになっている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料名のところに主題名が表記されていないため、生徒に特定の価値を押しつけることなく、自ら課題を発見する力を育めるようになっている。</li> <li>・ 2種類の特設ページ（深めよう、クローズアップ）を設け、多様な学びの展開が図れる。</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。</li> <li>・ 情報社会における生き方を考える、情報モラルに関する資料が全ての学年に2～3教材ずつ取り入れられている。</li> <li>・ 巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがあり、1年間での自分の成長を感じることができる。</li> <li>・ 読み物だけでなく、絵や写真、図やグラフ等のバラエティに富んだ素材で構成されている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カラーユニバーサルデザインにより、すべての生徒が見分けやすい配色や目に優しい色合いとの調和を図るよう配慮されている。</li> <li>・ AB判の大きな紙面で、写真やイラストが見やすく、活字も判別しやすい書体を使用している。</li> <li>・ 主題が本文中に記載されていないため、特定の価値観にとらわれることのない展開になるように工夫されている。</li> <li>・ いのちの教育を全学年の重点テーマにしている。</li> </ul>			

教科用図書の記号・番号・名称			種目	特別の教科 道徳
1年	2年	3年	発行者名	
道徳038-72 中学校道徳1 きみがいちばんひかるとき	道徳038-82 中学校道徳2 きみがいちばんひかるとき	道徳038-92 中学校道徳3 きみがいちばんひかるとき		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。</li> <li>・ 四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、「人権」に関しては、全学年とも三つの教材とコラムが用意されており、特に重点化が図られている。</li> <li>・ 全学年で、「いじめ問題」、「情報モラル」、「防災」、「キャリア教育」といった、現代を生き抜くための課題が幅広く取り上げられている。また、それぞれに、「コラム」として補助資料が添えられ、理解が深まるよう配慮されている。</li> </ul>			
2 程度・選択・取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ち着いた色合いと挿絵で見やすい。</li> <li>・ 主題名が資料に明確に明記されている。</li> <li>・ 目次に「道徳 道案内」として1年間に学ぶことについて、分かりやすく記されている。</li> <li>・ 「考えよう」という内容項目に沿った発問だけでなく、「見方を変えて」や「つなげよう」という発問があり、多面的に考えたり、これからの自分について考えさせたりする活動ができるようになっている。</li> </ul>			
3 組織・配列・分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いくつかの教材が関わりながら一つのテーマに向かって考えられるように、ユニットで構成されている。</li> <li>・ 「授業開き」と「振り返り」の教材が導入されていて、見通しをもたせたり、学びを振り返り、これからの生き方を見つめたりすることができるようになっている。</li> <li>・ 全ての学年に「まなびをプラス」を設け、「感動」「尊重」「学び」の三つのテーマについて、話し合いながらその本質を探ることができるようになっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年間をいくつかのユニットで分けることにより、よりよく生きることについて、さまざまな観点でアプローチできるよう工夫されている。</li> <li>・ 「いじめ問題」については特に力点が置かれている。</li> <li>・ 「現代的な課題」の中でも、「人権」「環境」「防災」について重視し、教材の後にコラムを取り入れている。</li> <li>・ 巻末には、道徳の授業で考えたことを記入する、「まなびの記録」が設けられていて、長期的に生徒の成長を評価するために有効に活用できる。</li> </ul>			

			種 目	特別の教科 道徳
教科用図書の記号・番号・名称				発行者名
1年	2年	3年	教育出版 株式会社	
道徳017-72 中学道徳1 とびだそう未来へ	道徳017-82 中学道徳2 とびだそう未来へ	道徳017-92 中学道徳3 とびだそう未来へ		
観 点	調 査 の 結 果			
1 内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。全学年を通してA20, B20, C44, D21の教材で構成されている。</li> <li>・四つの視点ともバランスよく取り上げられているが、視点Cに関しては、1年12に対し、2, 3年では「順法精神, 公德心」、「国際理解, 国際貢献」、「社会参画, 公共の精神」が複数回取り上げられることで、16と発達の段階に応じて差がつけられている。</li> <li>・写真を多用した教材により、自然環境について直感的に理解できるよう配慮されている。また、問題解決的な学習、体験的な学習に適した教材が取り上げられている。</li> </ul>			
2 程度・選択・ 取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの道しるべ」では、従来通りの副読本に掲載されているような発問例が掲載されている。</li> <li>・挿絵が、一番シンプルな感じ。</li> <li>・4つの大きな価値項目が色分けで区別されている。</li> <li>・学年ごとに、学習に入るまでの学び方、心の持ち方が分かりやすく紹介されている。</li> <li>・補充教材が入っていて、入れ替え可能になっている。</li> <li>・資料名下の <input checked="" type="checkbox"/> の一言コメント→この授業で何を考えていくのか意識作りができる。</li> <li>・<u>やってみよう</u> 体験的な活動教材、授業の中で無理なく取り入れられる。</li> <li>・</li> </ul>			
3 組織・配列・ 分量について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科や特別活動などの実施学年や学習時期を考慮した教材配列となっている。</li> <li>・1教材1時間での扱いができるように、35教材が掲載されている。</li> <li>・学年の発達段階に即して、1年では「A：自分自身に関すること」の教材を手厚く扱い、学年が上がるにつれて「B：人との関わり」や「C：集団や社会との関わり」の教材を増やしていく構成になっている。</li> </ul>			
4 本書の特徴点 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーユニバーサルデザインにより、全ての生徒が見分けやすい色合いとなるよう配慮されている。</li> <li>・学びの道しるべを活用して、多様な学びの展開が図られ、道徳的諸価値についての理解を深められる。</li> <li>・1学年前半部の教材本文は、大きい文字を使用しており、読むことへの抵抗を少なくする配慮がされている。</li> <li>・いじめについてスパイラルに学習できる。</li> <li>・コラムなどは極力つけずに、学習内容を焦点化している。</li> <li>・学習上支援が必要な生徒にとっても紙面全体が読みやすくわかりやすい。</li> </ul>			